第２８回
大野城市
中学生・高校生
交流の翼
報告書

～14 dreams and hopes～

Onojo Youth Wing 2019

＜　目　次　＞

団長あいさつ ･････････････････････････ 1
事業概要 ･････････････････････････････ 2
団員紹介 ･････････････････････････････ 4
研修報告
　研修スケジュール ･････････････････････ 6
　事前研修（第１～第５次研修） ･････････ 8
　本研修（第６次研修） ･････････････････ １４
　事後研修（第７次～第 10 次） ･････････ ３４
特集ページ ･････････････････････････ ３６
団員レポート ･･････････････････････ ４９
引率者あいさつ ･･････････････････････ ６４

チャレンジすることの大切さを学んだオーストラリア研修

第28回　大野城市中学生・高校生交流の翼
団　長　　松下　義彦
（大野城市立大野中学校）

第28回大野城市中学生・高校生交流の翼の団員として選ばれた14名は，６月８日・９日の宿泊研修をスタートに５回の事前研修を行い，８月11日～20日の９泊10日のオーストラリアの本研修，さらに事後研修４回，合計10回の研修を行ってきました。今年の団員は中１から高２まで幅広く，英語力にも大きく差がある個性的なメンバーが選出されました。

団員は，５回の事前研修を通して，団員相互の絆を深めるとともに，この研修に臨むにあたり，個人個人の目標を設定し，その目標を達成できるように意識をもって，事前研修に取り組みました。

８月11日，本研修出発当日，団員はオーストラリアでの研修を前に期待と不安を胸に大野城市役所に集まってきました。出発式の中で，この研修に選ばれたという自覚と誇り，そして，この研修に参加できる感謝の気持ちをもって，各自の目標を達成できるように頑張って欲しい。また，オーストラリアでのホームステイを通してオーストラリアの文化や自然を直接体験することにより，人間として一回り大きく成長して帰ってきて欲しいと話をしてオーストラリアに向けて出発をしました。

オーストラリアでは、シドニーから車で４時間ほど行った所にある、人口４万人ほどのオレンジ市のオレンジハイスクールでお世話になりました。団員は現地のオーストラリア人の家に７日間，たった一人でホームステイをしながら学校に通い勉強をしました。はじめはとても不安そうだった団員も、現地では，ホストファミリーの方や様々な方々との交流や体験を通して貴重な体験をしたようです。団員の感想でも「いろんな人と知り合いになれて良かった」「日本の文化を伝えることができた」「楽しかった，もう一度オーストラリアに行きたい」など，充実感・達成感をもって帰ってきたようです。逆に「思ったように英語が通じなかった」「積極的に話しかけられなかった」「もっといろんな人と話をしたかった」と後悔したこともあるようです。

私がこの研修で一番強く思ったことは「挑戦（チャレンジ）」することの大切さです。英語がある程度通用すると思って行きましたが，全く通用しませんでした。ペーパーやボードに書かれた英語はなんとかわかるのですが，会話になると全く聞きとれないし，こちらの意図も伝わらなく，困った場面がたくさんありました。それでも，あえて，学校の生徒や先生方に英語で話しかけたり，街に出かけたりして身振り手振りでなんとか思いを伝え生活をすることができました。当然失敗もたくさんしました。でも，このような経験は日本ではできません。オーストラリアに行ったからこそできた体験だと思っています。団員もきっと同じ思いをしたことだと思います。そういった意味で，失敗を恐れず積極的に挑戦することの大切さを学びました。

何はともあれ，大きなトラブルもなく，団員が全員元気に無事に帰国できたことをうれしく思います。これも，事前研修からオーストラリアでの本研修に至るまで細部にわたってご支援いただいた関係者の皆様，また，団員のみなさんの研修に対する意識の高さのおかげだと感謝しています。

最後になりましたが，このような研修の機会を設けてくださった大野城市，そして，企画・運営をしてくださったことも未来課，（公財）国際青少年研修協会，我々団員を快く受け入れてくださったオレンジハイスクールの皆様，そして，団員を温かく迎え入れてくださったホストファミリーのみなさまに深く感謝申し上げます。

It will be a lifetime memory for the students. Thank you very much for a short time.

第28回 大野城市中学生・高校生交流の翼
事業概要

1．目的

次代を担う中学生及び高校生を海外に派遣し、ホームステイ等を通じて外国の文化や自然を直接体験することにより、語学、文化及び習慣等を学び、国際的な広い視野を持つ青少年を育成する。

2．研修期間

令和元年６月８日（土）～１０月２０日（日）
うち、海外研修は８月１１日（日）～２０日（火）

3．海外研修地

オーストラリア（ニューサウスウェールズ州　オレンジ）

4．研修実績

◆第１次研修・・・６月８日（土）～９日（日）【１泊２日】
仲間づくりのためのレクリエーション、団長講話、野外炊飯、班別課題研修等

◆第２次研修・・・・・６月２３日（日）
１次研修の振り返り、日常英会話研修①、班別課題研修等

◆第３次研修・・・・・７月７日（日）
教育長講話、経験者アドバイス、班別課題研修等

◆第４次研修・・・・・７月１５日（月・祝）
引率指導員からのアドバイス、班別課題研修等

◆第５次研修・・・・・８月４日（日）
日常英会話研修②、班別課題研修等

◆第６次研修・・・・・８月１１日（日）～２０日（火）【９泊１０日】
ホームステイによるホストファミリーとの交流
オレンジハイスクールでの授業体験、アボリジニ文化体験、小学校での異世代交流、世界遺産ブルーマウンテン及びシドニー市内参観研修等

◆第７次研修・・・・・９月１日（日）
第６次研修の振り返り、報告書および報告会発表のための役割分担、作成等

◆第８次研修・・・・・９月８日（日）
報告書作成、報告会発表資料作成

◆第９次研修・・・・・９月２９日（日）
報告書作成、報告会発表資料作成、事後活動団体紹介

◆第10次研修・・・・・１０月６日（日）
報告書作成、報告会発表資料作成、報告会発表練習

◆報告会リハーサル・・・・・１０月１９日（土）
報告会全体練習
◆報告会・・・・・１０月２０日（日）
研修の総括報告

５．募集人員および応募条件

（１）募集人員
中学生及び高校生　　合計１４名以内
（２）応募条件
次の全てに該当すること
①大野城市在住の中学１年生～３年生または高校１年生～２年生
②心身共に健康で協調性に富み、規律ある団体行動ができること
③一人でホームステイできる強い意志があること
④交流の翼事業終了後、青少年教育活動団体もしくは国際交流活動団体に加入すること
⑤過去に、国・県及び市から公的助成を受けて海外研修に参加した経験がないこと
⑥オーストラリアの生徒が大野城市を訪問した際に、ホストファミリーとしてホームステイの受け入れを行うこと
⑦事前研修及び事後研修の全てに参加できること
⑧上記全てのことにつき、保護者の理解と同意があり、協力が得られること

６．引率者

◆引率者３名　　団長１名（市、教育委員会・市立中学校長会で選出）
引率指導員１名（(公財）国際青少年研修協会）
事務局１名（こども未来課職員）

７．参加者負担金

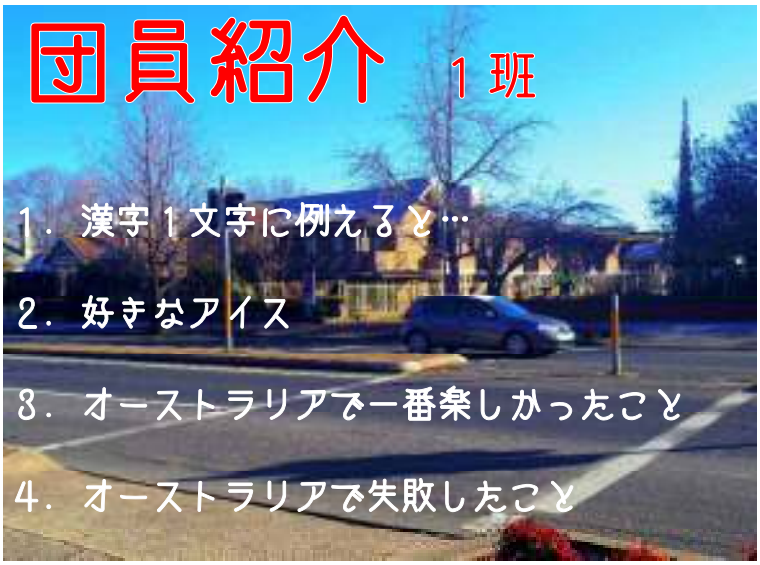
団員　　８万５千円（１名）
（パスポート申請費用、旅行傷害保険等にかかる費用は別途個人負担）

８．周知方法

広報「大野城」平成３１年４月１日号に募集記事掲載
市内全中学校に、募集ポスターを掲示及び全生徒に募集チラシ配布
筑紫地区及びその周辺の高等学校に募集ポスター及びチラシを配布

９．実施体制

市、教育委員会、中学校校長会、2019 年度団員の保護者代表で「大野城市中学生・高校生交流の翼実行委員会」を結成し、本事業を行う。なお、事務局はこども未来課に設置する。



福永　芽衣菜（ふくなが　めいな）

1．陽
2．クーリッシュ
3．トランポリン
4．鞄に荷物が入らずお土産があまり買えなかった

飯田　彩音（いいだ　あやね）

1．学
2．ヨーロピアン　シュガーコーン
3．ハンドボール
4．料理器具の英単語がわからなかった

上田　結也（うえだ　ゆうや）

1．勉
2．ブラックモンブラン
3．全部
4．スーツケースが小さすぎた

鬼丸　京佳（おにまる　きょうか）

1．凄
2．やわもち
3．全部
4．持って行ったお金をもう少し使えばよかった

伊藤　青也（いとう　しょうや）

1．踊
2．抹茶
3．トランポリン
4．「I want to be a friend」を聞き間違えて「No」と答えてしまった

荒木　翔（あらき　かける）

1．話
2．爽（バニラ）
3．火おこし
4．酔い止めが足りなかった

宮川　琴羽（みやかわ　ことは）

1．明
2．SAKURE
3．ショッピング
4．さよなら会に遅刻してしまった

田中（たなか）　雅樹（まさき）

1．兄
2．Mow（バニラ）
3．天体観測
4．ホストファミリーに餅を焼いてあげたら焦げてしまった

山中（やまなか）　咲幸（さゆき）

1．姉
2．きなこもち
3．BBQ
・キャンプファイヤー
4．味噌汁のお椀がなかった

神戸（かんべ）　愛心（ありみ）

1．真
2．マカダミアンナッツ
3．友達の家に遊びに行った
4．白玉団子と味噌汁を作ると言ったら、夕食がそれだけになった

金丸（かなまる）　隆佑（りゅうすけ）

1．笑
2．ビスケットサンド
3．ホームステイ
4．金銭感覚が分からず、高価なものを沢山買ってしまった

茂田（しげた）　華奈（はな）

1．輝
2．ハーゲンダッツ（クッキー＆クリーム）
3．ショッピング
4．初日に寝坊して朝ごはんが食べられなかった

松永（まつなが）　結太（ゆうた）

1．厳
2．パピコ（ホワイトサワー）
3．ボウリング
4．カレーを作る時に水の分量を間違えた

萩原（はぎわら）　優成（ゆうせい）

1．淡
2．マンゴーアイス
3．雪遊び
4．ホストスチューデントにアレルギーがあり、上手くお好み焼きが作れなかった

研修報告

◎研修スケジュール（全体）

	実施日	場　所	内　容
第1次研修	6月8日（土） ～6月9日（日）	国立夜須高原青少年自然の家	野外炊飯 班別課題研修 団長講話　等
第2次研修	6月23日（日）	市役所　本館3階 311・312会議室	日常英会話研修① 班別課題研修
第3次研修	7月7日（日）	市役所　本館3階 311・312会議室	教育長講話 経験者アドバイス 班別課題研修
第4次研修	7月15日（月・祝）	市役所　本館3階 311・312会議室	引率指導員アドバイス 班別課題研修
第5次研修	8月4日（日）	市役所　本館3階 311・312会議室	日常英会話研修② 班別課題研修
第6次研修 （本研修）	8月11日（日） ～8月20日（火）	オーストラリア（オレンジ市）	海外研修 （次ページ参照）
第7次研修	9月1日（日）	市役所　本館3階 311・312会議室	報告書作成 報告会準備
第8次研修	9月8日（日）	市役所　本館3階 311・312会議室	
第9次研修	9月22日（日） ⇒9月29日（日）に 延期（台風による）	市役所　新館4階 426会議室	
第10次研修	10月6日（日）	市役所　本館3階 311・312会議室	
報告会 リハーサル	10月19日（土）	大野城心のふるさと館 講座学習室	報告会リハーサル
報告会	10月20日（日）	大野城心のふるさと館 講座学習室	報告会

◎研修スケジュール（第6次・本研修）

月日	曜日	都　市　名	現地時間	交通機関	摘　　要
8･11	日	大野城市	11:00		大野城市役所にて出発式
			11:40	専用バス	市役所→福岡空港へ
		福岡発	15:10	KA343	キャセイ･ドラゴン航空にて香港へ
		香港着	17:45		香港にて乗継ぎ手続き
		香港発	18:50	CX111	キャセイ・パシフィック航空にてシドニーへ　（機中泊）
8･12	月	シドニー着	6:15		入国手続き
		シドニー空港発	7:30	専用バス	シドニー市内見学
		キャッスルヒル着	10:00		キャッスルヒルハイスクールへ
					キャッスルヒルハイスクールでの交流会
			13:00	専用バス	バスにてオレンジへ移動
		オレンジ着	17:00		オレンジ高校着
					ホストファミリーとの出会い　（ホームステイ）
8･13	火	オレンジ	終日	各家庭より移動	オレンジハイスクールにて学校体験
					オリエンテーション　（ホームステイ）
8･14	水	オレンジ	終日	各家庭より移動	オレンジハイスクールにて学校体験
					バディと一緒に授業体験
					班別課題発表（日本文化の紹介）　（ホームステイ）
8･15	木	オレンジ	終日	各家庭より移動	午前：Nashdale 小学校訪問（1班）
					オレンジハイスクールにて学校体験（2班）
					午後：Calare 小学校訪問（2班）
					オレンジハイスクールにて学校体験（1班）
					（ホームステイ）
8･16	金	オレンジ	終日	各家庭より移動	午前：アボリジニ文化体験
					午後：オレンジハイスクールにて学校体験
			16:00		さよなら会（班別課題発表（日本文化の紹介）、よさこい披露）　（ホームステイ）
8･17	土	オレンジ	終日		ホストファミリーと過ごす休日　（ホームステイ）
8･18	日				
8･19	月	オレンジ			ホストファミリーとの別れ
		オレンジ発	7:30	専用バス	世界遺産ブルーマウンテン見学
			14:00		フェザーデール・ワイルドライフパークへ
		シドニー着	夕方		シドニー市内参観
		シドニー発	21:55	CX138	キャセイ・パシフィック航空にて香港へ　（機中泊）
8･20	火	香港着	5:15		香港にて乗継ぎ手続き
		香港発	9:35	KA342	キャセイ･ドラゴン航空にて福岡へ
		福岡着	14:00		入国手続後、福岡空港にて解散式

※時差：　シドニー　／日本時間＋1時間（日本時間　12:00　⇒　シドニー　13:00）
　　香港　／日本時間－1 時間（日本時間　12:00　⇒　香港　11:00）

第１次研修　－６月８日－

国立夜須高原青少年自然の家での宿泊研修（１日目）

６月８日の朝、市役所前に集合した私たちは、バスに乗り込み、第１次研修の会場、夜須高原自然の家に向けて出発しました。周りはほとんどみんな知らない人ばかりで、楽しみな面もありながら、少し緊張していました。着いてからは入所式が行われ、すぐにレクリエーションが始まりました。ほとんど初対面の団員でしたが、レクリエーションでは、楽しむことが出来ました。午後からは野外調理が始まり、それぞれが自分の仕事に責任を持って行い、協力して、

おいしいカレーを作ることが出来ました。その後、簡単なレクリエーションの中で、みんなの名前を覚えることが出来ました。そのころにはもう、会話をたくさんするようになって、急速に仲良くなれたことに驚きました。その後のミーティングでは、現地でする発表の内容を決める話し合いが行われました。しかし、そこでは話が途切れてしまうことが多く、話し合いの進行が遅くなってしまいました。その話し合いで、これからの課題も見つかりました。その後、それぞれの部屋に戻り、みんなでトランプで遊んで就寝しました。１日目だけで、ほかの団員とのつながりを強めることが出来て、とてもよかったと思います。

この第１次研修での目標は、団員との仲を深めることとしていました。今回それは、意外と簡単にクリアすることが出来ました。カレー作りやレクリエーションなどを通して、私たちの中はとても深まっていました。他の団員の好きなことや物なども、たくさん知ることが出来ました。この第１次研修を通して、私は人と仲良くなる方法を学びました。このことが学べただけでも、第１次研修がよいものであったといえるのではないかと、私は思います。

≪１班　荒木　翔≫

第１次研修　－６月９日－

国立夜須高原青少年自然の家での宿泊研修（２日目）

第１次研修２日目には朝の集いがありました。僕は交流の翼を代表して、司会をしました。朝の集いには合宿で来た団体などたくさんの人が参加しており、全員でラジオ体操をしたり施設の方からの話を聞いたりしました。思っていたよりたくさんの人が朝の集いに参加していて緊張したけど、無事に司会を終えられたのでよかったです。

朝の集いの後は、団員全員で食堂に行き朝食を食べました。朝食はバイキング形式でお腹いっぱい食べることが出来ました。朝食を食べるとともに会話をたくさんして、緊張ばかりあった初日とは違い楽しい時間を過ごすことができました。

朝食後は、オーストラリアで行う発表とプレゼンテーションの内容を決めました。僕は班長で団員を仕切ったり意見をまとめたりしなければなりませんでしたが、最初は意見があまり出ず、うまく話合いが進みませんでした。僕はこれから班長としてもっと責任感を持たなければならないと思いました。

退所点検では、どの部屋も問題なく終わることが出来たので良かったです。退所式では、結也が司会、青也が代表あいさつに立候補してくれて、無事に式を終えることができました。また、施設の方に２日間の感謝を告げました。

今回の研修では今後の活動内容を決めるとともに団員の仲を深めることが出来て良かったです。また、団員全員で悔いのない 10 日間を過ごせるように班長としての責任感をしっかりと持って準備を頑張ろうと思いました。

≪２班　田中　雅樹≫

第２次研修　－６月23日－

第１次研修の振り返り、日常英会話研修

今日は、まず、第１次研修の振り返りをしました。良かった点では、仲良くなれた、時間が守れていたなどが出ました。惡かった点では、話し合いの時間に話題がそれたという反省が出ました。この反省を、これからの研修に生かしていこうと思いました。

次に、よさこいの練習をしました。動画と青也を手本に練習しました。わからない振り付けもみんなで教え合うことができて、とても心強かったです。

午後から、日常英会話研修がありました。市役所の国際化推進員の江上さんに来ていただき、自己紹介や話すときに大切なことなどたくさんのことを学びました。病気になったときや空港で必要な英会話など知らないことがたくさんありました。ゲームなどを通してたくさんの英語を学ぶことができたので本研修でも生かしていこうと思いました。最後に、オージーイングリッシュを学びました。普通の英語とは少し違うけど、どんなものか知ることができてよかったです。

日常英会話研修が終わると、パワーポイントの作成に移りました。グラフを作るのにてこずったけどみんなで協力して作ることができたのでよかったです。英語で作らないといけないので少し大変でした。でもこれからの研修でも、みんなで協力して頑張ろうと思いました。

≪１班　鬼丸　京佳≫

第３次研修　－７月７日－

教育長講話、経験者からのアドバイス

午前中は、教育長から講話をしていただきました。未知の土地であるオーストラリアに行くことで、「自分を見つめなおし、新しい自分を発見できる機会にして欲しい。」とお話しをしていただきました。講話を通して、将来自分がどんな社会人になりたいのか、深く考えられる場となるよう、オーストラリアの本研修を有意義なものにしたいと決意しました。

午後は、経験者からのアドバイスや情報交換を行いました。昨年度の経験をもとに、ホストファミリーと過ごした活動内容やオーストラリアの様子など、様々な話を聞くことができ、不安だった気持ちが吹っ飛び、オーストラリアへ行く本研修への期待が大きくふくらみました。

最後に、パワーポイントの作成と、現地で披露するよさこいダンス「よっちょれ」の練習をしました。ダンスが上手な青也を筆頭に、繰り返し練習しました。日本の伝統的なダンスを、オーストラリアのみなさんに、しっかりパフォーマンスをできるよう、声を合わせて、一生懸命取り組みました。

「よっちょれ、よっちょれ、よっちょれ、やあ！」

≪２班　山中　咲幸≫

第４次研修　－７月 15 日－

引率者からのアドバイス

今日は本研修で引率してくださる国際青少年研修協会の中村さん（チェリーさん）と対面しました。まずは自己紹介カードを記入し、みんなのニックネームを決めました。それからはまだ呼び慣れていなくて気恥ずかしい気持ちもあったけど、ニックネームで呼び合うようになりました。そのおかげで更に仲が深まったような気がしました。

また、荷造りをするときの注意点やオーストラリアで注意することなど、チェリーさんからオーストラリアでの本研修に向けての最後のアドバイスをもらいました。

チェリーさんと今までどこの国に行ったことがあるのかという話をすると、これまでに何回も海外に行ったことを教えてくれました。私もチェリーさんのようにもっと海外に行きたいなと思いました。

その後、パワーポイントのリハーサルをチェリーさんに見てもらいました。リハーサルは言葉につまるところが多く、なかなか思うようにいきませんでした。本番まであと１回しかないという理由で少し焦りも見えてきました。

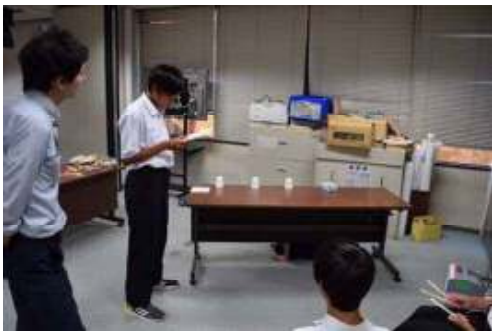
リハーサルの後はパワーポイントを修正したり原稿を読むスピードを変えて読む練習をしたりしました。２回目のリハーサルは１回目よりだいぶ良くなりましたが、まだ原稿を読むスピードが速いなど課題がみえました。だから次は、完璧にできるように家でも練習をするなどできることはやろうと思いました。

≪１班　宮川　琴羽≫

第５次研修　－８月４日－

日常英会話研修、班別課題リハーサル

今日は、午前中に日常英会話の研修がありました。イギリス人のベンジャミン先生にレッスンをしていただきました。英語の本場の方だから、発音やイントネーションなどがとてもお手本になりました。研修では、スキットをつくって実際にあるパスポートを渡す場面の練習などをしました。他にもいろいろなアドバイスをしてくださいました。相手へはなすときの表情や手のつかい方などを教えてくださいました。また、何かをお願いするときの言い方で、Please～～やCan you～～ではなく、May I～～で言ったほうが丁寧な言い方でいいというアドバイスをもらい、実際にそれをやってみようと思いました。レッスンの最初、先生が自己紹介をして、自分たちに「次はあなたたちだよ」と言いました。いきなりすぎて、みんなとまどっていると、いつでもすぐに自己紹介ができるようになっておかないといけないと言われました。なので、僕も、オーストラリアに行くまでに、自分の自己紹介だけはスムーズにできるようになっておこうと思いました。次に、パワーポイントの最終確認と、小学校での出し物の準備をしました。パワーポイントの最終確認では、前回の反省をふまえて、全体で１回通しました。そのあと、団員や、先生たちからアドバイスをもらって完成しました。前回の通しの練習よりは、よくなっていたのでオーストラリアで、うまくいけばいいなと思いました。小学校の出し物では、各班、出し物の担当をきめて、準備にとりかかりました。どの班もアドバイスを出しあい、試行錯誤しながら完成に近づけました。僕の担当の射的では、説明する人、景品の人、お手本の人など役割分担してできました。次の研修はいよいよ本研修なので気を引きしめて頑張ろうと思いました。



≪２班　金丸　隆佑≫

本研修　－８月 11 日－

出発式⇒福岡空港⇒香港空港⇒シドニー空港

今日は市役所で出発式を行なった後空港に向かいました。出発式では、沢山の人に見守られる中、胸を張って挑みました。みんなは、緊張している様でしたが、私はあまり緊張しませんでした。そのあとは、いよいよ福岡を出るんだなと、不安と希望の入り混じった笑顔で家族に手を振りながらバスに乗りました。

国際線に着き、搭乗の準備をしました。私は荷物検査の時に心臓が飛び出そうなくらい緊張し、出発式のときの自分とは全くの別人になっていました。でも、何も問題なく検査を通過できて一安心しました。

いよいよ飛行機に乗り３時間 30 分のフライトが始まりました。機内は思った以上に快適で映画もたくさんあったので驚きました。そして香港に到着しました。香港空港はとても広く、なにより搭乗口が５００以上あったこと、搭乗口まで電車で移動することに驚きました。そしてシドニー行きの飛行機に少し緊張しながら乗り、夜は入国時に必要な申告書を書きました。分からない事だらけだったので少し焦りましたが、事前研修で書き方を学んでいたので、しっかりと記入することができてよかったです。周りはスラスラかけている人もいれば、戸惑っている人もいました。夜はオーストラリアでどんな楽しいことが待っているのかと想像したり、ホストファミリーとうまくやっていけるかと不安を感じたりしながら眠りにつきました。

≪１班　宮川　琴羽≫

本研修　－８月 12 日－

シドニー到着～キャッスルヒルハイスクールでの交流会

福岡を出発し香港で乗り継ぎシドニーに向かいました。機内泊であまり眠れずうとうとしていたら朝食となりました。ＣＡさんが希望をきいてくれて、ポークを選択しました。お米が日本の米と違いタイ米で長細くパサパサしていたけれど美味しい機内食でした。朝食後しばらくすると窓から緑の自然と街が見え、あっという間に着陸。飛行機をおりたら、寒い！！日本を出たときはすごく暑い夏、飛行機に乗って外に出たらそこは寒い冬。あらかじめ季節の違いはわかっていましたが、実際に北半球と南半球の違いを体感して本当にオーストラリアへ来たのだとワクワクしました。ここからいろんな経験がスタートするのだと思うと、不安より楽しみが大きかったです。

オーストラリアは持ち込み荷物に厳しい国と聞いていましたが、あらかじめ確認していたのでスムーズに進みました。荷物をピックアップしバスに乗ってキャッスルヒルハイスクールへ。そこで、出発間際まで練習したよさこいを披露しました。緊張してしまい少し間違ってしまったところもありましたが、生徒の皆さんからたくさんの拍手をもらいうれしかったです。その後学校探検をし、僕は男の子と女の子と３人でグループになり、最初は、何を話したらいいか戸惑いましたが、向こうからいろいろと話しかけてくれて、飼っているペットや日本のアニメについて話をして盛り上がりました。学校はとても広く、科目ごとに教室があるので教室数が多いことを教えてもらいました。黒板ではなくホワイトボードがあり、プロジェクターを使った授業が行われていてすごく最先端な授業だなと思いました。日本語教室ではまず自己紹介をし、生徒のみなさんは、「ついたち、ふつか、みっか…はつか」と普段学習している日本語を披露してくれました。お昼になり、みんなで集まってのランチで、パンにチーズやレタスなどを挟んだサンドウィッチやたくさんのフルーツがあり、どれも美味しく楽しくたべました。自分で食べたいものをとって食べられて自由でリラックスできるのは、日本と違うなと感じうらやましかったです。ランチ中は、みんなでいろいろ話をしましたが、一番盛り上がったのは、日本のアニメでした。僕のおすすめアニメを紹介したら知っている子もけっこういて、さらには、現在放送されている日本のアニメのことを知っている子が多くてびっくりしました。楽しい時間はあっという間で、オレンジへ向けて出発する時間になり、みんなにお別れをして写真撮影をしました。短い時間ではあったけど、現地で初めてたくさんのコミュニケーションをすることができて楽しかったです。これからどんどんコミュニケーションをして、オーストラリアで様々な経験をしていきたいと思いながら、キャッスルヒルハイスクールを後にしました。

≪２班　萩原　優成≫

本研修　－８月 12 日－

オレンジに到着

キャッスルヒルハイスクールを去った後、車で４時間かけてオレンジへ向かいました。みんなバスの中では長旅に疲れていたみたいでぐっすりと寝ていました。道中、オーストラリアでは珍しい雪を見ることが出来ました。また、僕は見られなかったけど野生のカンガルーもいたみたいです。そして周りの広大な農地を見ながら僕もうとうとと夢の中に入っていきました。

そうしたらあっという間にオレンジに着き、ついにホストファミリーとマッチング。ホストスチューデントのリアムくんは僕と同い年なのに体がとても大きくてビックリしました。お家は車で 20 分くらいのところにあって、その移動中はとても緊張して全然話すことができませんでした。そんな中お父さんが「kangaroo!」と言って横の農地にいる野生のカンガルーを見せてくれました。僕は初めて野生のカンガルーを見られたのでついー緒に「カンガルーー！」と叫んでしまいました。「いつもいるの？」と聞くと食べ物を求めて毎晩来ると教えてくれました。そして明日散歩のついでにカンガルーをもっと見に行こうと言われました。これが記念すべきホストファミリーとの最初の会話です。このように、自分から話しかけていこうと思いました。

そうしてリアムくんのお家に着きました。周りには何もない開けたところで、その広大さにとても驚きました。そしてマロとジェット（犬の名前）に出迎えられてお家にはいりました。プールにトランポリン、広い農地、長い廊下、とにかくすべてが大きかったです。夜ご飯で肉を食べた後、明日の朝ずっとたべてみたかったベジマイトを食べたいと言いました。匂いをかがせてもらったけど、納豆のような匂いでとても自分にはあわないかなと思いました。そのあと、日本のお土産をあげました。リアムくんにはけん玉をあげました。とても喜んでくれました。ずっとやっていたら僕よりも上手くなっていたのでちょっとビックリしました。今日は緊張して全然話せなかったので、明日はもっとたくさん話して後悔のないようにしたいです。

≪１班　上田　結也≫

本研修　－８月 13 日－

オレンジハイスクールでの学校体験

ホストファミリーと迎える初めての朝。起きてリビングに行くと、ホストマザーとホストスチューデントのジェットが「Good morning！」と言ってくれました。そして、ジェットと一緒にコーンフレークとコーラを朝食として食べました。僕の家ではジュースを朝から飲むことはないので驚きました。

その後、初めてオレンジハイスクールに登校しました。僕は毎日重いカバンを背負って徒歩で学校へ行っていますが、オーストラリアではホストマザーが車で学校まで送ってくれました。学校のグラウンドはとても広い芝のグラウンドでした。学校の中に入るまで外でジェットと待っていると、クラスメイト達がたくさん集まってきて、僕に話しかけてくれたので少し緊張がほぐれました。みんなとてもフレンドリーで、すぐに仲良くなることができました。

学校では最初に、アヤ先生の日本語教室で、イアン先生から学校のスケジュールについて説明があった後、実際にみんなと授業を受けました。先生が話している英語は速く、難しい単語ばかりで聞き取れませんでした。しかし、ジェットが簡単な単語に直して一生懸命説明してくれたので、少し理解することができました。

２つの授業が終わると、Recess という時間がありました。これは中間休みのことです。この時間はフルーツやお菓子を食べてもよい時間で、みんな家から持ってきた物を食べていました。僕もホストマザーが持たせてくれたリンゴやお菓子を食べました。日本では学校でお菓子を食べることなどないのでビックリしました。この時間にもクラスメイトがたくさん話しかけてくれました。なかには日本語で話しかけてくれる人もいました。オーストラリアの人々も日本語を勉強しているので、とても上手でした。なので、どこか懐かしいような気持ちになりました。

≪２班　松永　結太≫

本研修　－８月 13 日－

オレンジハイスクールでの学校体験

ランチは、ママが登校中に買ってくれたサンドウィッチを９年生のみんなと中庭に集まって食べました。午前中が日本人は私１人の授業ばかりで孤独だったため、やっと咲幸と芽衣茉という日本人に会えた喜びから３人だけで会話が弾んでしまいました。しかし、マディーやホリーがお菓子をくれ、その後はハンドボールというオーストラリアの学生に大人気のゲームを一緒にしました。（日本人の言うハンドボールではない。）残念ながら、今でも詳しいルールは謎です。真冬に半袖短パン姿で外に出て遊ぶなど小柄な日本人には考えられません。

五、六時間目はバスで五分くらいのところにあるジムで運動しました。ジャンプスクワット、壁座り、腕立て伏せ、その場高速足踏みなど 20 余りの種目を 25 秒サイクルで行うというハードなものでした。日本の体育の授業のように形式的なものではなく実用的なスポーツでした。飛行機で凝り固まった体もほぐせました。

その後 30 分ほど歩いて帰宅しました。母国語の違う２人でずっと会話を続けるのは難しく、沈黙もありました。帰宅後、抹茶キットカット、コアラのマーチ、きなこせんべいなど日本の駄菓子を披露しました。意外にも一番人気は男梅!!罰ゲーム用と思い、持って行ったけれどサモアのお菓子に似ているらしく兄弟で取り合いでした。（私のホストファミリーはサモア出身でした。）その後は、６歳の双子と３人でトランポリンをしました。とても楽しくオーストラリアに来てからの不安が一気に薄れました。夜ご飯にはチャプスイを食べました。ママが 22 時まで仕事なのでパパが作ってくれました。ジャポニカ米ではなくぱさぱさしていました。夜は SNOW で写真を撮ってはしゃぎました。そして、のんびりなオーストラリア人は 22 時には就寝です。

≪１班　飯田　彩音≫

本研修　－８月 14 日－

日本文化のプレゼンテーション

学校２日目の朝。

「昨日おいしいって言っていたから同じのにしたわよ」と言いながら、ホストマザーが、手作りのお弁当を手渡ししてくれました。ホストマザーが作る食事は総て美味しいのですが、私の口に合うようにいろいろな気配りをしてくださっていて、つくづく有難いなあと思いました。ホストマザーは、食事の際、私が「美味しい」と言うと、とても喜んでくれます。感謝や喜びをきちんと言葉で伝えると相手が笑顔になってくれる…その笑顔で私も笑顔になる…温かい想いは循環するのだなと感じました。

朝ごはんの後、学校に早めに行きホストスチューデントのアメリアの友人たちと話をしました。アメリアの親友以外、初対面の人ばかりで日本のことだけでなくオーストラリアに関することも聞かれました。前日にアメリアたちと大量のお菓子を食べたこともあり、食べ物の話で盛り上がりました。やはり共通の興味・話題があるとコミュニケーションがとりやすいと思います。

午前中は、事前研修で準備をした「日本文化」について、団員全員で日本語クラスの生徒に向けてプレゼンテーションをしました。自分の英語が大人数の人に伝わるのか不安でしたが、みんな真面目に聞いてくれたし、クイズにも参加してくれてうれしかったです。

プレゼンテーションで一番難しかったことは、実は英語で話すことではなく、日本語で話すことでした。高学年のクラスには、日本語の勉強のために思いかけず日本語でプレゼンテーションをすることになりました。オーストラリアに来て初めて、日本人以外の人に日本語で長い説明をしたので、新鮮な気持ちになりました。研修では英語でしか練習していなかったので、その場でいかに簡潔な日本語を話すかということが思った以上に難しかったです。普段は私たちが生徒から英語を学ばせてもらっていますが、今回は逆に日本語の勉強の役に立つことができて、貴重な経験が出来たと思います。また、私の班では金太郎飴を配ったのですが、とても喜んでくれました。オーストラリアにもロックキャンディーという金太郎飴のようなお菓子がありました。私が見せてもらったロックキャンディーのデザインは、きれいな可愛らしい花でした。家に帰ると、飴のおかげで、ホストファミリーとの話題が増えることになりました。

≪２班　神戸　愛心≫

本研修　－８月14日－

日本文化のプレゼンテーション

学校では、午前でもやったように班別課題を発表しました。班別課題で１班は、日本とオーストラリアの生活習慣の違いについてプレゼンテーションを行いました。朝食や通学、学校生活、掃除、部活動、お風呂、布団のことについて紹介しました。この日は、１日に何度もプレゼンテーションをしたので、みんなとても上手くなっていました。それは僕も一緒で、ずっと「ふとんがふっとんだ」というダジャレを言っていたので、だんだん言うことに恥じらいが無くなっていきました。ダジャレを聞いたときのオレンジハイスクールの生徒の反応は、ノーリアクションでした。日本のダジャレを伝えるには、まだ英語力が足りないと感じましたが、その反面、自分の精神面の成長を感じました。

プレゼンテーションが終わった後は、みんな各々のホストスチューデントと授業に行きましたが、先生が話す英語が全くわかりませんでした。体育や、家庭科、技術は楽しいけど、数学や英語はとても難しくて、僕もみんなも苦戦しました。やれるだけのことはやりましたが、難しかったです。また、図書館に行くようなフリータイムもありました。「僕のヒーローアカデミア」や「進撃の巨人」などの漫画があり、親近感を持ちました。

学校が終わったあとは、みんな家でホストファミリーと過ごしました。トランプやテニス、チェス、映画鑑賞、すごろく、ゲーム、トランポリンなど、いろいろなことをして交流を深めました。ちなみに僕は、マイケルジャクソンが好きなので、「Ｔｈｉｓ　ｉｓ　ｉｔ」という映画を見ました。やはりマイケルジャクソンは、世界中で愛されているなと感じました。

団員のみんなは普段の夕食で、ステーキやナチョス、マッシュポテト、パプロア、ＢＢＱ、ミートパイ、ピザ、ジャガバター、焼いたブロッコリー、カンガルー肉、ラム肉などを食べていたようです。中には寿司を食べた人もいました。この日の僕の夕食はハンバーグでした。ディナーを食べ終わると「one more?」と聞かれ、イエスと答えたら、もう１個出てきました。「No」と答えたらごちそうさまができました。量が多くて、おかわりすることはほとんどありませんでしたが、ホストファミリーのコナーは２，３回おかわりしていました。オーストラリアの人と自分の胃の大きさに差を感じました。でも、僕を気遣ってもっと食べるか尋ねてくれたので、ホストファミリーの優しさや温もりを感じました。

≪１班　伊藤　青也≫

本研修　－８月 15 日－

午前①：Nashdale 小学校訪問

今日の午前は Nashdale 小学校を訪問しました。オレンジハイスクールから離れたところにあったのでバスに乗っていきました。

１班は、日本文化紹介ということで「折り紙・切り紙」と「クイズ」をするグループに分かれて交流しました。みんなとっても元気な子どもたちで可愛かったです。クイズでは多くの子が手を挙げてくれたし、真剣に折り紙を折っている姿が見られてとても嬉しく思いました。また、クイズでは時間が余ってしまったので、アヤ先生に助けてもらいながら急きょ、数字を教えたり、日本語で名前を書いてあげたりしました。数字を教えるときは、ジェスチャーと一緒に数字を言っていくという方法をアヤ先生に教えてもらいました。例えば「８」だったら太陽（sun）、「７」だったらバナナといった感じで、とても楽しく日本語を学ぶことができたのではないかなと思います。ただ、時間が余ってしまって何もできることがなく、アヤ先生の力を借りてしまったので、何かを計画する際はさまざまな状況を想定しながら計画して、もし想定外のことが起きても自分から臨機応変に動けるようにしたいと思いました。

その後は、みんなとリフレッシュタイム。おもちゃの刀を持っていたので僕たちの周りには人だかりができました。また驚いたのは大きなチェス盤でチェスをしていたことです。やっぱり日本と全然違うなと思いました。そしてあっという間にお別れの時間。みんなは感謝の気持ちを込めて「Ｔｈａｎｋ　ｙｏｕ！」と言いました。でもなぜか青也だけは「Ｓｏｒｒｙ．Ｓｏｒｒｙ」と言っていました。彼は途中で自分が間違えていると気付いたらしく、とても恥ずかしそうにしていました。

≪１班　上田　結也≫

本研修　－８月 15 日－

午前②：オレンジハイスクール学校体験

今日も、ホストファミリーと一緒に学校へ行き授業を体験しました。自分のホストファミリーは、農家で遠くに住んでいるので、車で３０分ほどかけて学校に行きました。通学の道中でリンゴの木やワインのためのブドウの木、放牧されている牛や野生のカンガルーなど日本ではなかなか見ることが出来ない広大で美しい景色が見られました。

学校では、ホストファミリーの授業に一緒に参加しました。授業ごとにその教科の教室に移動し、自分の好きな席に座るスタイルで、日本と違い授業中に友達と好きに会話をしたり席を移動したりしていて、とても自由な授業でした。体育の授業では、日本のグラウンドの３倍以上はある広大な芝生の土地でサッカーをしました。40 人くらいの生徒に先生が２人ついていました。参加している生徒は同じ学年の生徒というわけではなく自分と同じくらいの年の人もいれば、年がはなれた小さな人もいました。広い土地でするサッカーの授業は本当に楽しく、自分は日本からホームステイをしにオーストラリアに来たと説明するとたくさんの生徒が自分に話しかけてくれて仲良くなれたので良かったです。最後にみんなで記念写真を撮ってくれたのでうれしかったです。

地理の授業では、学校にある小さな小屋で飼っている鶏のひなやヤギを見せてもらいました。授業で動物とふれあうことが出来るのは日本ではなかなか体験できないことなので、土地が広いオーストラリアならではの授業だと思いました。

≪２班　田中　雅樹≫

本研修　－８月 15 日－

午後①：オレンジハイスクール学校体験

昼食の時に、日本の駄菓子を一人ずつ配ったら日本語で「ありがとう」と言ってくれました。とてもほっとする言葉です。５時間目は、１班のみで７年生にむけてプレゼンテーションをしました。とても活発なクラスでたくさんの質問を受けました。特に日本の学生の生活リズムは現地の子には考えられないほどハードスケジュールらしいです。６時間目は英語の授業で、あるバスケットボール選手についてYouTube で鑑賞するものでした。もちろんオールイングリッシュなのでさっぱり分かりませんでした。放課後には、演劇活動の様子を見ました。先生がお題を出して、１０秒間のシンキングタイムを経て４人ですぐに演技するもので、想像力と表現力の高さに驚きました。一般的な日本人には不可能に思えるほど高度なのに楽しんでやっていました。

帰宅後、パパとママが買い物に行っている間、アルプス一万尺を教えたら大好評でした。日本語の歌ではなく、アルプス一万尺の原曲らしいヤンキードゥードゥルという英語の歌にアレンジして歌いました。最後にはハイスピードでもできるようになっていました。また、オーストラリアで流行っている手遊びもいくつか教えてもらいました。どの国にも子供の手遊びがあることに親近感を持ちました。そのあと、オージービーフのマックを食べました。６歳の双子ちゃんが頼んでいたハッピーセットがグレッグのダメ日記でした。夜は UNO をしました。残り一枚になったときウノではなくユーノと言っていたのでびっくりしました。６歳の双子の女の子の口癖が「Can I～」で、言い方もとってもかわいかったです。直訳すると、「～してもいいですか」ですが、カイナは「私にも～させて」という意味で言っていたのだと思います。とってもいい一日になりました。

≪１班　飯田　彩音≫

本研修　－８月 15 日－

午後②：Calare 小学校訪問

今日の午後は２班（雅樹、咲幸、愛心、隆佑、華奈、優成、結太）で　CALARE　PUBLIC　SCHOOLに行きました。小学校に行って驚いたのは、校庭が芝生でとても広かったことです。校庭以外にも本格的なバスケットボールのコートなどがあり、みんな楽しそうに遊んでいました!(^^)!小学校では、２班のなかでも２つのグループに分かれて小学生に「射的」と「習字」を体験してもらいました。

射的グループは雅樹、隆佑、優成、結太が担当しました。割りばしと輪ゴムで作った銃で的（紙コップ）を倒してもらい、的が倒れたら景品として折り紙をプレゼントしました。みんな１回目は的を倒すのが難しそうだったけれど、アドバイスをすると２回目は的を倒すことができていました。的を倒せたときの顔がとても嬉しそうで、楽しんでくれていたことがよく伝わってきました(*^。^*)

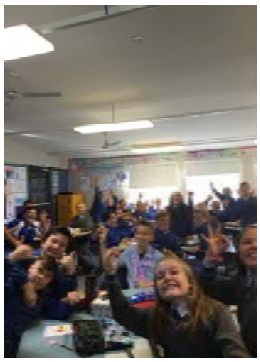
景品としてプレゼントした折り紙をとても喜んでくれていて、「頑張ってたくさん作ってよかった」と思いました(^o^)

習字グループは咲幸、愛心、華奈が担当しました。

最初に「What’s your name?」と名前を聞き、名前を漢字に直してあげたものを筆ペンで半紙に書いてもらいました。

例）Ameria→雨李亞

みんな一生懸命楽しそうに書いてくれていたので、「今まで準備を頑張ってきて良かった」という気持ちになりました♪



帰り際に日本語で「ありがとう」と書かれた手紙をもらいました。一生懸命書いてくれたことがよく伝わってきてとても嬉しかったです(#^.^#)

仲良くなった子とハイタッチをしていると、クラスの子全員がハイタッチをしにきてくれました。

本当に素直でかわいい子どもたちでした(>_<)

≪２班　茂田　華奈≫

本研修　－８月 16 日－

アボリジニ文化体験

今日、オレンジハイスクールでアボリジニ文化体験をしました。最初にアボリジニの文化の説明をしてくださいました。昔、アボリジニの文化にはいろいろな武器があってその武器を実際に持ってきてくださいました。持ってみると意外と軽かったり、重かったりしてびっくりしました。また、使うときの工夫などもたくさんあり聞いていくうちにとても興味がわいてきました。ぼくが１番、興味がわいたのは、ディジュリジュです。ディジュリジュとは楽器の名前でダンスなどに使われます。そのダンスで昔は文化を後世に伝えていました。しかし、その楽器は女性が吹くと子どもができなくなると言われているそうです。楽器を吹いただけで子どもができなくなると聞いてとてもびっくりしました。また、ディジュリジュの木の空洞は人間が作っているのではなく、白アリが穴を開けたものを使っているそうです。その木を見極める技術も後世にしっかり伝わっていてすごいなと思いました。

次にいよいよ本題のブーメラン作りをスタートしました。ブーメランに描くものは特に決まっていなかったけど、自分で作った物語を、絵や模様、記号で表しました。また、記号などは表現方法が決まっていて「男」や「女」、「カンガルー」などの表現の仕方を教わりました。完成したらブーメランを飛ばしにグラウンドに行きました。うまく飛ばすのは難しかったです。松下校長先生がとても上手に飛ばせていてびっくりしました。初めて本物のブーメランをつくって、投げて、いろいろなことを知る機会になってよかったです。アボリジニに少し詳しくなったので、このいい経験をみんなと共有したいです。

≪２班　金丸　隆佑≫

本研修　－８月 16 日－

Farewell（さよなら会）

午後からは、オレンジハイスクールで最後の授業を受けました。５限目は英語の授業でシェイクスピアの小説を英語で音読したり、セリフの穴埋めをしたりしました。英語で、クラスの子が音読しているのを聞いていると、読み上げるのが早すぎて目で追いかけるのがやっとでした。発音が日本で聞く英語の何倍もよく、本を見てついていっても内容をしっかり読み込めませんでした。そこで、リスニング力を現地であげておこうと思い、本を見ずに声だけを聴いてみました。案の定まったくわかりませんでした。でも、この発音は日本では聞けないのでいい経験となった授業でした。６限目は地理の授業でした。地理のワークシートを外の机で１時間ずっと解いていました。ほかのページを見てみると、日本についての問題がありました。それは、個々の都道府県名は何ですか、や、この４つの大きな島の名前を答えなさい（北海道、本州、九州、四国）でした。日本人にとっては簡単ですが、日本以外の人にとっては難しいから問題になるのだなと感じました。都道府県名を答える問題では、広島と長崎、東京が出題されていました。原子爆弾が過去に落とされた都市なので福岡や大阪よりも世界的に有名なのだなあと思いました。５，６限の授業のお友達の中には、今までの授業や、昼休みのごはんのときに仲良くしてくれていた子がいたので、ありがとうの気持ちを込めて、名前と“I was glad to see you.”と書いたクリップを渡しました。学校で配る小さいお菓子を用意しなかったので後悔していましたが、渡せるような日本のものを持っていてよかったなと思いました。また会いたいです。

５，６限の後は日本語クラスへ行き、さよなら会を行いました。さよなら会は、私たちが主催し、ホストファミリーのみなさんに感謝を伝える会です。この会では、初めに、松下団長が英語であいさつをしました。団長の英語は新鮮でした。次に、プレゼンをし、その後はよさこいを踊りました。私のホストファミリーは、家族全員が見に来ていて、とても緊張しましたが、笑顔で踊りきることができてよかったです。お別れ会の後は、お寿司を食べました。オーストラリアでお寿司を食べられると思っていなかったので、驚きました。お別れ会が終わると、もうこの学校に登校することはないことを再認識し、寂しくなりました。

家に帰るとすぐ、お庭で遊ぼうと言われ、バスケやトランポリン、サッカー、クリケットをしました。お庭でできる範囲で、そして１つのゴールでできる彼ら独自のルールで遊びました。英語でルール説明を受けるので、余計に頭を使いましたが、実際にやってみると、だんだん深くわかってきて、みんなでずっと笑いながら楽しみました。家の中に戻り、夕食の前後はずっと子ども部屋でゲームをしていました。いつもは 10 時には寝ているのに、今日は 10 時半くらいまでゲームをしていて、11 時半ごろに寝ました。オーストラリアにも「花金」のような風潮があるのでしょうか。ゲーム後にお話しして、１番盛り上がったのは大野ジョー君の鼻の位置の話でした。ここから日本の話が始まって楽しかったので、大野城市民の皆さんも外国での話題に困ったら使ってみてください。

≪１班　福永　芽衣茉≫

本研修　－８月 17 日－

ホストファミリーと過ごす休日　その１

今日は、ホストファミリーとピクニックをしました。ホストファーザーが、公園に向かう前に大きな紙袋を抱えて、店を出てきたのでなんだろう？と思っていると、公園に着き開けてみたら、それはなんとフィッシュ＆チップスでした。１つ１つがとても大きくて、あっという間におなかー杯になりました。ぽかぽかな良い天気にめぐまれ、緑に囲まれながら食べたフィッシュ＆チップスは格別でした。私は、フィッシュ＆チップスに、ケチャップでにこちゃんマークを書き、ホストファミリーに見せると笑ってくれました。その後、公園の鳥小屋へ行きました。そこには、様々な鳥がおり、その１つに"クックテイル"という鳥がいました。話した言葉をマネて、リピートしてくれたのでびっくりしました。他にも青や緑、赤など多様な美しい鳥がいてとてもきれいでした。

午後はショッピングに行きました。いつもオレンジハイスクールで一緒に過ごし、仲良くしてくれた６人グループと、"芽衣茉"と"彩音"、 計９人でショッピングをしました。日本とまず違うなと思ったのは食品の色です。どの食品も色鮮やかでおいしそうでした。またショッピングカートやレジのスケールも大きかったです。コストコにいるような気分でした。カートいっぱいにお土産を買い、初めての大人買いを経験し、とても楽しかったです。でも、家に帰って、それらをトランクに詰め込むのがとても大変でした。30 分もかけてお土産をトランクにパッキングし、なんとか全てのものを入れられました。ネコが１匹部屋に入ってきて、トランクの上に乗り、ふたを押すのを手伝ってくれたのでかわいかったです。帰国時、トランクを空港に預けたら、なんと重さ 29 kg！　上限の 30 kgスレスレで、係員さんも私も思わず「Ｏｈ－！」と言うのが、ぴったり揃いました。

夜は、ホストステューデントのアラナと一緒に習字と折り紙をしました。当て字を教えて、漢字を体験した時のアラナがとても楽しそうでうれしかったです！日本の文化を教えることができて、充実した時間になりました。

≪２班　山中　咲幸≫

本研修　－８月 17 日－

ホストファミリーと過ごす休日　その２

朝起きてテレビのほうに行ってみると猫がいました。ずっとこっちを見ていたので見つめ返していると、向こうもさらに見つめてきました。朝ごはんを食べた後、ホストスチューデントに、「今日は何をしたい？」と英語で聞かれたので、「shopping」と言うと、通じないかと思いきや、通じたのでとてもびっくりしました。買い物に行って、オーストラリアのペンとノートを買いました。ただ、本命のマイケルジャクソンの帽子を買おうとしていましたが、なかなか見つからなくて、困っていました。そのことをホストファミリーに話すと、ホストファミリーがわざわざ町に出てまで帽子の店を探してくれました。無事に花がついているマイケルハットを買えました。ホストファミリーの優しさを感じ、嬉しくなりました。その後に「ランチは何がいい？」と英語で聞かれたので「Mcdonald」と自分なりに発音良く言うと、ちゃんと理解してくれました。マックに着いて一番驚いたことはオーストラリアのマックはオーダー形式だったことです。僕がお金を払うよと言うと、ホストスチューデントのタイは「no,no,no」と言って、何やらカードのようなものを取り出して、奢ってくれました。真のイケメンとは、こういうことなんだなと僕は思いました。

夜はご飯をホストファミリーと一緒に作りました。そこで、僕は初めての卵割に挑戦しました。初めての割にはうまく割れたので、とても嬉しくて、舞い上がってしまいました。ご飯が出来上がって食べようと思って、椅子を引くと、猫のチョビーが僕の椅子で寝ていて、どかそうと思っても重すぎてどかせませんでした。なので、わざわざホストスチューデントに新しい椅子を用意してもらいました。ご飯を食べていると、スマッチという猫がご飯をねだってきました。けれど、ぼくはご飯をあげませんでした。ちょっとかわいそうに思えてきてしまいました。

この日を通して、オーストラリアの方々はとても優しく、オーストラリアの猫たちはとても欲深いことがわかりました。けれどこの１日で、オーストラリアをしっかり堪能できました。また行きたいという気持ちが強まりました。

≪１班　伊藤　青也≫

本研修　－８月 18 日－

ホストファミリーと過ごす休日　その８

今日がホストファミリーと過ごす最後の日。あっという間にこの日がやってきてしまいました。朝、車で５分ほど移動し、ホストファミリー同士が仲良い雅樹のホストファミリーの家へやってきました。朝食を用意してくれていて、外のテラスに出てみんなで食べました。敷地がとても広く草原が広がっていて、朝の空気がとても気持ちよく、のんびりゆったり優雅な朝食です。住宅地に住んでいる僕にとっては、こんな心地よい環境でいつでも朝食がとれることをうらやましく感じました。パンにバターをぬってベーコンと目玉焼きをはさんでサンドウィッチにして食べ、とても美味しかったです。その後、広い庭でトランポリンやブランコで遊んだり、スマホのゲームなどをしたりして過ごしました。帰りは、雅樹たちと一緒に散歩がてら２時間歩いて帰りました。道路ではない家もあまりない草原を歩いているとカンガルーの群れに遭遇し、その後ワラビーが１匹だけ群れから離れていて近くで見ることができ、ここはやっぱりオーストラリアなのだと感動しました。

帰宅後、ホストマザーが家の馬に乗せてくれると言ってくれて、３頭いるうちの１番大きい馬に乗せてくれました。馬に乗ると自分の目線が高くなり、緑いっぱいの広い景色を眺めることができました。

夕方になりこの日は僕が日本食を紹介する為お好み焼きを作ることになっていました。しかし、ここで大問題発生！！ファミリーのティムの卵アレルギーが発覚し、日本から持ってきたお好み焼き粉がＮＧ！さらに大豆もＮＧで、お好みソースも食べられないという事態に。パニックになりつつも、別の方法を一生懸命調べて、ティム用のお好み焼きは小麦粉で作って、ソースは、彼が食べられる家にあるバーベキューソースでなんとか完成させました。見た目はまぁまぁだったかもしれないけれど、ファミリーから「ＧＯＯＤ！！」と言ってもらえて、思った以上に苦労したものの作ってよかったと思いました。ただ、あらかじめホストファミリーと連絡をとって、アレルギーがあるかは聞くべきだったので、準備不足だったと思いました。

部屋での最後の夜は、日本から持ってきたポストカードに翌日のお別れの時に渡すファミリーへの感謝の手紙を書きました。楽しく過ごせて感謝の気持ちが溢れました。明日の朝でお別れしてしまうことの寂しさを感じながら、最後に「ありがとう」とひらがなでメッセージを書きました。

≪２班　萩原　優成≫

本研修　－８月 18 日－

ホストファミリーと過ごす休日　その４

今日は、ホストファミリーと過ごす最後の日でした。今日の朝ごはんは、ホストスチューデントのキラが作ってくれたチョコレートソースが入ったパンケーキでした。私のホストファミリーは、毎週日曜日の朝ごはんを子どもが作るという習慣があるそうです。いろいろなソースがあって日本と違うところを感じることができました。

その後に、ホストマザーとキラと一緒にショッピングに行きました。『キーホルダー』が言葉で伝わりにくかったけど、自分の欲しいものを伝えることができて嬉しかったです。

お昼ごはんは、近くの公園で華奈のホストファミリーと合流し、ピクニックをしました。写真を撮ったり、話したりしました。その後は、公園のカモに餌をあげました。キラが家から鶏の エサを持ってきていたのでそれを池に投げました。日本ではできないことだけどこの公園は許されていました。たくさんのカモが寄ってきて楽しかったです。ピクニックの後はスーパーに行きました。オーストラリアの食べ物をたくさん教えてもらいました。オーストラリアについての知識がまた増えたので、誰かに教えたくなりました。

帰ってから買った荷物などを片付けているとキラが自分のお金で買ったカンガルーのぬいぐるみにブルーマウンテンのコインを入れてくれました。とても嬉しかったです。

夜ご飯の後、アレックスとキラと一緒にマシュマロを限界まで口につめて遊びました。１つのマシュマロがとても大きくてびっくりしました。キラが３つもつめたのでアレックスと爆笑しました。家族全員で盛り上がってとても楽しかったです。

夜、寝ようとしていたら、ジンクスという猫がいきなりベッドに上って来ました。とてもあたたかくてかわいかったです。１日中動いていたけどとても楽しい１日でした。最後の日に、もう１つ最高の思い出を作ることができました。

≪１班　鬼丸　京佳≫

本研修　－８月 19 日－

ホストファミリーとの別れ、ブルーマウンテン見学

ホストファミリーとの別れの朝。起きていつものようにリビングへ行くと、ホストマザーがケーキを作ってくれていました。お別れの日ということで、早起きして作ってくれたそうです。そのケーキを朝食としてホストスチューデントのジェットと一緒に食べました。しかし、これがジェットと食べる最後の朝食だと思うと寂しくなりました。

朝食後、オレンジハイスクールへ送ってもらい、そこから僕は日本へ帰る為のバスに乗ります。バスに乗る前に僕は感謝の気持ちを込めて手紙を渡しました。するとホストファミリーが「サヨナラ！」と日本語で言ってくれました。僕はその言葉を聞いたときに、寂しさと感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。その後、お互いに「また会おうね！」と言ってお別れをしました。僕は絶対にまたホストファミリーに会いにオーストラリアに行くぞ、と心の中で決心しました。

オレンジからブルーマウンテンまで、バスに乗って１時間半かかります。バスの中では、みんなさすがに疲れているのか、ホストとの別れが寂しいのか、「行き」とは違って静かでした。

世界遺産であるブルーマウンテンの景色はとても雄大で、オーストラリアの大自然に圧倒されました。実は前日にホストファミリーがブルーマウンテンに連れて行ってくれて、その時に、ブルーマウンテンという名前はユーカリの森から出る油分が気化して山が青く見えることから付けられたということをホストマザーが教えてくれたことを思い出しました。みんな、ブルーマウンテン付近の売店で、アボリジニのディジュリジュなど日本には売っていないものをお土産としてたくさん買っていました。

≪２班　松永　結太≫

本研修　－８月 19 日－

フェザーデール・ワイルドライフパーク見学～シドニーへ

ブルーマウンテンへ行った後はフェザーデール・ワイルドライフパークという動物園へ行きました。中に入ってすぐ動物がたくさんいました。日本は遠くから檻の中の動物を判別できますが、ここは檻が黒くて格子がせまく、檻の中も自然を再現するため草や木がたくさんあり、檻に近づいてよく見ないと動物を見つけることができませんでした。狩りをする動物たちは限られた範囲でも見つけづらい動物を、無限の範囲内で捕らえなくてはならないのかと想像すると、人間は生ぬるい生活をしているなと思うと同時に、自然界への尊敬の念を抱きました。日本でも、ただ動物の保護、紹介をするだけでなく、忠実な自然の再現もしてほしいなと思いました。

この動物園で私たちはお昼ご飯を食べました。私が１つ食べ物を落としてしまった瞬間に、鳥が足元にきて持って行ってしまいました。鳥と言っているので大きさが伝わりにくいでしょうが、羽を広げると傘を開いたくらいの大きさです。昼ごはんの後は、園内を回りました。基本的に柵が低く、野生の動物も混ざっていて、飼われているのがどれかすぐにわからないような自由な雰囲気でした。カンガルーも脱走して、走り回っていました。私はこの動物園で、人生初めての本物のコアラを見ました。コアラはほとんどの子が丸まって寝ていましたが、１匹だけすごく近くではっぱを食べていて、近くで動いている姿を見ることができ、幸せでした。クロコダイルもいました。そこはすごく頑丈な囲いがついていました。でも、中のクロコダイルは口を開けて目をつむって全く動いていなかったので、これは本物なのかみんなで争っていました。私はさすがに本物だろうと思っていましたが、なかなか動かないので、半信半疑で見ていました。すると急に動き出して本物だとわかり安心したと同時に、動くだけで迫力があり、感動しました。日光浴をしていたようで、変温動物は体温調節のことも考えなくてはならず、大変だろうなと思いました。

動物園の後はシドニーへ向かいました。シドニーでは日本語の通じるお土産屋へ行きました。聞いていた通りにシドニーは物価が高く、何も買えなかったので、ブルーマウンテンのお土産屋でもっと買っておけばよかったなと後悔しました。その後は、夜ご飯を食べに、フードコートへ行き、各々の食べたいものを食べました。この場所はシドニータワーの近くだったようで、地図帳に乗っている建物をこの目で拝むことができてよかったです。その後は空港へ向かいました。バスに乗っていると見たことのある景色が見えてきて、もう帰りなのかとさみしくなりました。

≪１班　福永　芽衣茉≫

本研修　－8月20日－

いざ、福岡へ！

昨晩はシドニーから無事に出国し、今日は早朝に香港へ着きました。いよいよ日本へ帰国！

香港での待ち時間は 2,3 人で１組になって、外国の方に「出身地」や「どこに行くのか」、「行先では何をするのか」などをインタビューしました。１人目の方に話しかけるまでに時間がかかりましたが、いざ話しかけてみるととても優しく受け答えをしてくださって嬉しかったです(*^。^*)

ついに福岡への飛行機に乗り込みました。機内食は「おいしい!!」という人と「ちょっと無理」という人がいて意見が真っ二つに分かれました。笑笑

苦手と思ったら本当に一口も食べられないので、お腹にたまるお菓子をたくさん持っていくことをおすすめします。

福岡空港行きの飛行機の中では、ホストファミリーと一緒に過ごした日々を思い出していました。オーストラリアで過ごした日々は本当に毎日が楽しくて忘れられない思い出になり、また、英語で会話することの楽しさを学びました！！

日本に着くと、家族が笑顔で迎えてくれました(^o^)
久しぶりに家族の顔を見てとても安心しました(#^.^#)

解散式では、本研修に至るまでにたくさんお世話になった松下団長、チェリーさん、森さん、山崎さん、保護者の方々に、ことはが団員を代表して感謝の言葉を伝えてくれました。

≪２班　茂田　華奈≫

第７次研修　－９月１日－

本研修の振り返り、報告書作成・報告会準備

今日から事後研修が始まりました。

まず初めに１人ずつ本研修の反省を発表していきました。団員同士で学んだことと反省点を共有することができました。次に今後の活動テーマを考えました。意見がちょうど２つに分かれてなかなかきまらなかったので、今後の検討事項となりました。

その後は報告書作成と報告会の指針を立てました。報告書の特集ページに何を載せるか話し合ったときに、みんなおもしろいアイディアを出していました。

≪２班　神戸　愛心≫

第８次研修　－９月８日－

報告書作成・報告会準備

今日はまず報告会と報告書のテーマでもあるサブタイトルを決めました。第７次研修では、男女で７票ずつになり、保留になっていました。なかなか決まらなかったので、結局あみだくじで決め、「14 dreams and hopes」になりました。

前回、パワーポイントや報告書などの役割分担を決めたので、今回は最初から作成作業に取り掛かりました。また、チラシとポスターの作成も行ない、学校などに配布できるようデザインを考えました。報告会用のパワーポイントでは、担当する日を分担していましたが、作業が早い人はもう完成して、読み原稿の作成に移っていました。

報告書では、オーストラリアに関するトピックやプロフィールを考えて作成しました。完成して発表の練習を行なうまであまり時間がないので、みんな集中して取り組んでいました。家に持ち帰って作業をする人もおり、みんなのやる気が感じられました。

≪１班　荒木　翔≫

第９次研修　－９月29日－

報告書作成・報告会準備

今日は、中学生リーダーズクラブ、それいけ☆青年組、大野城市国際交流協会の方々が取り組みを紹介するために来てくださいました。団体名は、聞いたことがあったけれど、活動内容は知りませんでした。交流の翼以外にも複数の異文化交流団体があり、多くの同世代の人が参加していました。こういう活動に自ら取り組み、継続して頑張っている人がいるのだと思うと、自分も努力を怠らないようにしなければならないと思いました。

その他の時間では、引き続き報告会用パワーポイントと報告書の作成を行いました。早く自分の役割が終わった人が、他の人を手伝う姿が見られ、よかったと思います。

次から報告会で行うプレゼンテーションの練習になるので協力して頑張ろうと気を引き締め直しました。

≪２班　神戸　愛心≫

第10次研修　－10月６日－

報告書作成・報告会準備、発表練習

今日はまず報告会での司会者決めや、発表以外の時間に行う出し物を決めました。その後、作業に取り掛かりました。殆どみんな終了しており、一つにまとめたり、原稿を書いたりしていました。準備最後の日ということで、みんな活気づいていました。また、オーストラリアの研修を振り返るミュージックビデオを作ったり、報告書の番外編を作ったりしました。

午後からは、発表の練習を行いました。次のリハーサルに備えて、みんな頑張って練習していました。本研修中の発表では、声が小さかったり、前を向いていなかったりというような課題点があったので、そういったことに気を付けながら練習しました。みんなで作業する最後の日だったので、報告会を成功させようとみんな協力して完成させました。

≪１班　荒木　翔≫

Topic1

Australia culture

面積　7,692,024㎢

➡ 世界6位　日本の約20倍！

人口　24,243,600人

➡ 世界51位　日本の0．19倍！（126，440，000人　世界11位）

ホームステイ先　オレンジ

オーストラリアには、大きく分けて6つの州があります。そのうちの一つ、ニュー・サウス・ウェールズ州の、シドニーから西へ向かって車で4時間の場所に位置するのが、オレンジです。広大な土地に広がる豊かな自然に、心を癒されました。

その1　キャノボラス山（Canobolas）

海抜1.390mの標高をもつ、以前活火山であったキャノボラス山は、ニュー・サウス・ウェールズ州で最も高い山です。オレンジ市の南西13kmに位置し、肥沃な火山性土壌がある北側の斜面で、ワインの生産地して有名です。名前は、アボリジニの単語“GaahnaBula”（2つの肩）に由来します。

その2　ガムの花（Gum blossom）

多くの花と異なり、ガムの花は花びらがありません。花びらの様に見えるのは全て雄しべで、昆虫や鳥を引き寄せます。右の写真は、オレンジで有名な種類のガムの花です。お土産にレターセットが人気で、私は、ホストファミリーからそれをいただきました。

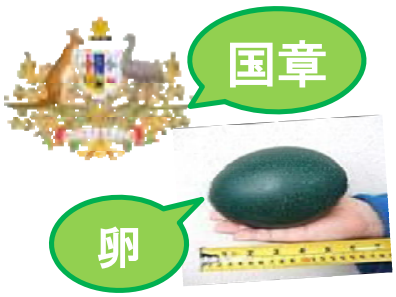
動物 in Australia

ディンゴ（Dingo）

体長約103cmで、黄褐色の体毛と尖った耳が特徴です。一見、犬やオオカミのようですが、吠えることが無く、獰猛です。かつて、残飯処理や、抱いて寝ることで枕替わりとするため、アボリジニの人々によって飼われていました。

エミュー（Emu）

飛翔ができず、二足歩行する、オーストラリアの非公式な国鳥です。卵は、手のひらサイズの深緑で、雛は、可愛らしい縞模様をもっています。



カンガルー（kangaroo）

オーストラリアには、50種類以上のカンガルーが生息しており、その個体数は、4500万。これは、人口2450万人を大幅に超えています。そのため、各地で野生のカンガルーを見ることができます。また、夜に車で走行する際は、道路に飛び出すカンガルーとの衝突が多発するため、Roo Barというバンパーを付ける必要があります。

カモノハシ（ platypus ）

アヒルのような嘴と、ビーバーのような尾をもつ独特な外見や,哺乳類なのに卵を産むことが特徴的です。オスのみ、後ろ足に毒が混じった分泌液を出す蹴爪を持っています。

コアラ（Koala）

コアラは、東オーストラリアの限られた地域に生息しています。餌となるユーカリやアカシア、ティー・ツリーの芽や葉を食べ、1日に20時間以上寝て過ごします。これは、栄養分の少ないユーカリを食べているため、エネルギーの使用量を抑えるためです。各州によって条例が異なり、コアラ保全のため、5つの州で抱っこが禁止されています。

アボリジニについて

アボリジニ（Aborigine）とは、ヨーロッパ人らによる植民地化の前からオーストラリア大陸や、その周辺の島に住んでいた先住民のことを指します。彼らは、250種類以上の言語と、異なる習慣、文化を持つため、文字を使わず絵でコミュニケーションをとります。その代表的なものが、右の写真の模様です。また、色に意味があり、赤は陸や血を、黒はアボリジニの人々や夜、黄色は太陽、白は先祖、霧や風、雷を表しています。

5色の絵の具でブーメラン作り開始！

アボリジニの模様を使って物語を表現

実際に体験！投射角度は45度上手く返ってくるかな？

他にも・・・

ディジュリドゥ

長さが1～1.5mある伝統的な管楽器で、シロアリによって中空になった木を利用して作られます。唇を震わせながら息を送ると独特の低音を響かせ、1つ1つ異なる繊細な模様により物語を表現しています。しかし、昔からの言い伝えにより女性が吹くと出産できなくなるため、男子のメンバーのみ体験させてもらいました。

盾と矛

昔、アボリジニ同士で争いが起きた際、実際に使用していた槍と盾です。決まった木だけを用い、とがった石で彫って作ります。持ったとき，狩りをするアボリジニの人々の様子が浮かび、親近感がわきました。ちなみに、ブーメランは、狩りで仕留めた獲物の最後の止めとして使われるそうです。

ヨーロッパ人による植民地化で、持ち込まれた伝染病や、白豪主義による虐殺によって純血のアボリジニは全滅しました。現在、混血のアボリジニが35万人まで回復しましたが、これはオーストラリアの人口の約2%です。次世代にアボリジニの文化が伝わり、途絶えることのないよう、体験時、次の人、また次の人へ繋げてほしいと、アボリジニについての知識を託されました。今、このレポートを読んで知ったことを，広めてもらえると嬉しいです。

世界遺産 in Australia

1， 世界最大のサンゴ礁　グレートバリアリーフ

クイーンズランド州の東岸に延々と続く、全長約2000kmの広大なサンゴ礁群で、世界中のダイバーにとって、一生に一度は潜りたい海の楽園です。このサンゴの生育環境には、太陽の光がとても大切であるため、十分な陽射しと、温かい海水が不可欠で、この条件に合ったオーストラリア北東沖の大陸棚で、永い年月をかけ、グレートバリアリーフが育まれてきました。

2，大地の神秘　ウルル（エアーズロック）

「地球のへソ」と呼ばれる世界最大級の一枚岩。アボリジニの言葉で「ウルル」と呼ばれ、精霊が宿る聖地として大切にされています。アボリジニがウルル周辺に住み着いたのは、今から1万年以上前といわれ、精霊や水場の位置が描かれた古代の壁画が残っています。ウルルの高さは約340m、岩の周囲は約9.4km。岩肌が赤いのは、鉄分を多く含む砂岩が酸化したため。日の出や日没に、輝くオレンジ色や、燃えるような真紅、幻想的なブルーへと変わっていく様子は、神秘的です。

3，ブルーに輝くユーカリの山々　ブルーマウンテンズ

複数の国立公園を含む広さ103万haのエリアが、世界遺産に登録されています。91種ものユーカリが広い範囲に渡って自生しており、ユーカリ大国のオーストラリアでも、この地域以外では見られない貴重な森林です。夏になると、気温の上昇に伴い、ユーカリを含む油が気化します。それらは、太陽光の青のスペクトラムを良く通すため、ブルーの霧に包まれたような風景が出現します。
左は、「スリーシスターズ」と呼ばれる3つの奇岩群です。

4，シドニー湾のシンボル　オペラハウス

シドニー湾は、世界三大美港の1つで、そのシンボル的存在がオペラハウスです。1956年、ニューサウスウェールズ州政府がデザインを公募し、世界中から集まった200件以上の作品から選ばれたのが、白い貝殻のような美しい流線型のオペラハウス案でした。設計者は、無名だったデンマークの建築家、ヨーン・ウッツォン。斬新なデザインだけに、工事は難航を極め、完成までに14年もの歳月と、当初予算の10倍以上のコストが費やされました。今では、年間1600もの公演数を誇る世界有数の劇場です。

Tpic2

行って分かった
オーストラリアの街並み

日差しが強い！とにかく日差しが強い！
高い建物がないので、どこからでも遠くの景色まで見渡すことができ、開放感があります。
日本に帰ると日本が狭く感じました。

上にも書いたとおり、遠くの景色まで見えるので、夕日や朝日がきれいに見えます。日本ではあまり見ることのできない、陸の地平線を見ることができます。ブラジルの草原に投げ出されたかと思ったと言っていた団員もいました。

Tpic2

行って分かった オーストラリアの街並み

信号！！縦です。縦なんです！滞在中は信号の仕組みや、どの信号を見ればよいのかが全く分かりませんでした。

あっ、見たことのあるマークだ！となることが、オーストラリアではたびたびありました。車も日本製のものを見ることがよくありました。日本と同じく左側通行でした。

面積は日本の20倍ほど。しかし、人口は5分の1ほど。平屋が多いのもうなずけます。しかも広めのお庭つき。オーストラリアの人が日本のマンションやアパートを見たらどう思うのでしょうか。

Topic3

Castle Hill High School

この学校には様々な国から来た生徒がいました。第２外国語が日本語で、同年代とは思えないほど日本語が上手で驚きました。それに比べると、私たちの英語力はまだまだだなと感じました。

冷蔵庫にジュースやお菓子、サンドウィッチなどがたくさん入っていて休み時間になると生徒に配られました。日本にはない文化なので、とてもうらやましくなりました。

Topic3

Orange High school

校則は日本に比べて『自由』な印象を受けました。制服はありましたが、シャツを出して着ている生徒もいました。日本の校則は厳しいので少しうらやましかったです。

授業ではパソコンを使いながら受けたりと、その技術は私たちよりもはるかに優れていました。日本で受けるような授業もありましたが、専門的なものが多いそうです。

Topic3

学校の設備

学校はとても広く校庭は芝生でした。授業の開始や終了を知らせるチャイムは、『ジリリリ』という警報のような音でした。音が大きく、鳴るたびに驚いてしまいました。

教室がとても多くありました。日本とは違い、教科ごとに教室があり、生徒が受ける授業の教室へ移動していきます。また、生徒が掃除をする習慣がなく、清掃員が学校を掃除していました。校舎や校庭はとても綺麗でした。少しうらやましく感じました。

Topic3

Nashdale と Calare 小学校

みんな制服を着ていて校庭にはたくさんの遊具がありました。私たちの姿を見かけると、「コンニチハ！」と元気な声で挨拶してくれました。普段から日本語を学んでいるらしく、私たちが訪問した際には、ジェスチャーを使って日本語の１～１０を学んでいました。みんな可愛くて癒されました。

topic4

オーストラリアのスーパー

・オーストラリアのスーパーはとても広く、一つ一つの商品も大きく、同じ商品でも種類がたくさんあります。

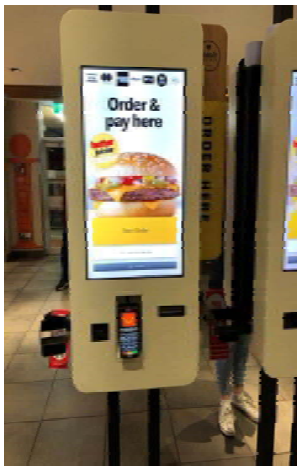
・日本の食べ物もたくさん置いてあり寿司やうどんなどが売られていました。

・一番小さいサイズのコーラでも600mlもありました。

・飲み物の物価は日本に比べて高くコーラ600ml一本で300円近くしました。

オーストラリアのレストラン

・オーストラリアには、日本でおなじみのマクドナルドやケンタッキーなどのファストフードもあり、日本のように色んな国の料理店が並んでいました。



・レストランでの飲み物はペットボトルがそのまま出てきたのでおどろきました。

・米は、蒸したものか炒めたものかを選ぶことができました。ですが、タイ米なので日本の米に比べてパサパサしていてあまり美味しくなかったです。日本のお米が恋しくなりました。

オーストラリアの食べ物

オージービーフ

オージービーフは、オーストラリアの牛の肉です。

日本の牛の肉よりも赤身が多く硬いのが特徴です。味は、とてもおいしかったです。

ベジマイト

ベジマイトとは、発酵食品です。

野菜をイースト菌で発酵させたものです。見た目はチョコレートクリームのような茶色ですが、食べたことのない味がします。塩辛い味がして苦味と不思議な風味が広がります。個人的には、苦手な味でした。

Onojo Youth Wing 2019

団員レポート

＆ 引率者あいさつ

夢への一歩

福岡県立筑紫丘高等学校　２年
１班　班長　　福永　芽衣茉

私は、自分の将来のため、交流の翼事業に参加しました。国際化が進む社会の中で、価値観の等しい日本の人たちと共に過ごし、言葉で説明する必要がなくても察しあって生きていける日本で生ぬるい生活を送っていては、いざ説明が必要なとき、しかもなじみのない言語でなければならないとき、この社会で生き延びていけるとは到底思えず、危機感を抱いていました。そんな時、見つけたのがこの事業でした。異国で向こうの生活に入り込んだ経験があれば将来の自信につながる、私はそう思いました。私は班長を任命されましたが、育ってきた環境や学年、考え方や人生経験の違う人たちのまとめ方に苦労し、いろんな不安を抱えていました。ですが、ずっと悩んでいるわけにもいかず、そして、せっかく与えられたリーダーとして成長するチャンスを無駄にしてはいけないと思い、考えて黙らない、とにかくしゃべって周りの協力を得る、ということを目標とし、研修を進めていきました。しっかりして、頼りがいのある班長になれたかどうかはわかりませんが、学校や学年の枠を超えた集団をまとめる経験は、この交流の翼事業に参加していなければ得られなかったもので、これからの私にとってよいものとなりました。

本研修では、初めての国際線に乗りました。自分の周囲がだんだん英語に染まっていくのを感じました。私は友人の影響で、少し航空関係の仕事に憧れがあり、中でも客室乗務員に興味を持っていたので、滅多にみることのできない飛行機の中での仕事ぶりをよく目に焼き付けておこうと思いました。英語でコミュニケーションをとりながら働く日本人はとても輝いていました。

オーストラリアは、やはり日本と全く違った学校の雰囲気や仕組みで、教室のドアがオートロックであったり、プロジェクターが教室に備え付けてあったりなど、現地の人々にとって当たり前で日本とは異なる細かい部分はインターネットでは知ることができなかっただろうと思います。実際に行かなければわからないことにたくさん気づくことができた本研修。着眼点も少しは変わった気がします。私にとって思い出ともなり、未来の理想の自分を形成する１つのパーツともなり、新しいステップを踏み出すための土台ともなった10日間でした。

アボリジニ文化への愛情がある方々から直接話を聞けて、日本に閉じこもっていなくてよかった、挑戦してよかったと心から思えました。あの時挑戦を恐れていればこの自分は存在しなかったと思います。平田オリザさんの言っていた「人生のとても多くは偶然と運によるものだ」「家に帰ってきた子は 16 か月前に日本を出た子とは違うのだ」という言葉が、実際にオーストラリアへ飛び出した後に聞くと、以前聞いた時よりも心にしみ、とても共感できました。私も、平田オリザさんのように10日前の自分とは違う私になって家に、日本に帰ってきたのだと誇りをもって言える本研修となりました。不安だらけの私を受け入れてくれたホストファミリー、私を信じて送り出してくれた家族、悩みを聞いてくれた友達、私たちを支えてくれた方々へ計り知れない感謝の気持ちがいっぱいです。この気持ちを一生忘れず、自分の夢への道を切り拓いていこうと思います。

日本を知る

久留米大学附設高等学校　１年
１班　副班長　　飯田　彩音

私は、多くのカルチャーショックから、オーストラリア人から見た日本のイメージを学びました。それは、棚の中に様々なものが規則的にぎっしりと置かれている感じです。整理整頓されて、密度の高い感じ、まさに京都や札幌の碁盤の目のような街並みが、私が感じ取ったジャパンでした。学校での授業、街並み、時間の使い方、食生活などすべてにおいてそう感じました。

オーストラリアでは、授業の際に机を日本の学校のように並べることはなく、コの字だったり円形テーブルだったりします。授業中は、ペンを握りひたむきに問題に取り組むことは無く、アクティブラーニング型が多くあります。また、道幅は広く無秩序な路上駐車もあります。とにかく、ゆったりと広々とした街並みでした。朝ごはんは軽く、おやつタイムが学校で設けられていました。日本の学生に比べて驚くほどフリータイムが長いです。これらのことを一言でまとめると、オーストラリアは「自由」、日本は「生真面目」であると感じます。

私は双方の国の長所を発見しました。オーストラリアの長所は、活発な生活で育まれた発想力です。演劇活動の様子を見学しましたが、お題を与えられて10秒の間に四人で構成を練り、即興で演じるというものでした。一般的な日本人では考えられないような活動です。また、お土産でハトマメを渡したらココアの中に入れて、朝ごはんにするというアレンジレシピを６歳児が編み出しました。一方、日本はというと地道な努力から、世界でもトップレベルの創薬や SEIKO などの精密機器作りに成功しています。しかし、同時に短所もあります。それを埋めるために、思考力、想像力の発展を目指し来年度から共通テストを導入しようとしたり、学校では私たちがオーストラリアで体験したような班活動を増やしたりしているのだと感じました。

10 日間の学びから、改めて日本独自の素晴らしさを知りました。自国を湖に例えるならば、日本人が日本について知ろうとすることは、自分が泳いでいる湖について知ろうとするようなものです。深く知るためには、岸まで泳ぎ、湖を陸上からも見なければなりません。今後も多くの国を訪れ、その国から見た日本のイメージを学びたいと思います。それが１番の自国について知る手段だと思います。

積極性と協調性

大利中学校　３年
１班　副班長　　上田　結也

僕は「外国の文化や習慣を自分の体で体験したい」「外国の友達をつくりたい」という理由でこの交流の翼に参加しました。

第１次研修では学校や学年の違うメンバーとちゃんとやっていけるか不安でした。でも部屋でのトランプや班別の野外炊飯などでその不安はかき消されていきました。そして回を重ねるごとに仲が深まっていき、本研修が楽しみになっていきました。

ついに本研修の日がやってきました。最初の訪問地のキャッスルヒルハイスクールではペアの子とたくさん話す機会はあったものの自分から話しかけることもできず、自分の英語力のなさを痛感しこれからの生活がとても不安になりました。

その夜楽しみにしていたホストファミリーとのマッチング。あんなに楽しみにしていたのにいざ会ってみると、周りは英語をしゃべる人しかおらず英語恐怖症になって質問されたらパニックになりました。でもそんなことをしていたら、この研修に参加している意味がないと思い、次の日からいろんな人と話す機会をたくさんつくりました。最初の頃は何か聞かれたらとにかく「Ｙｅｓ！」を連発していたけど、相手は僕に伝わるようにゆっくりと話してくれたので、たくさん話すにつれて相手の言っている言葉のキーワードを聞き取れるようになり、英語に対する恐怖心が自然となくなっていき、まともに会話ができるようになりました。だから大野城市や日本の文化をホストファミリーに説明することにチャレンジしてみました。電子辞書を使いながらだったけど自分の力で説明し、理解してもらえたのでとても嬉しかったです。さらに「ぜひ大野城市に行ってユウヤの家でホームステイがしたい」と言われたときには飛び上がるほど感激しました。何事にも恐れずにチャレンジしてみることで、最高の喜びが待っているのだとよく分かりました。

また、オーストラリアに行ってみてオーストラリアの多文化社会というものを直に体験することができました。学校で、日本人の僕が教室に入ってきてもクラスのみんなは「ハイ、ユウヤ！」と自然に声をかけてくれます。彼らはオーストラリア人ではない僕を大切にしてくれたのだろうと思います。一人ひとり違った個性を認めて共生していく素晴らしい国だなと思いました。ぼくも一人ひとりの個性を大切にできる人になりたいと思いました。

最後に、こんな貴重な体験ができたのも、松下校長先生、森さん、チェリーさん、陰で支えてくれた市役所の方々、家族、そしてメンバーなど多くの人に支えられたおかげです。本当にありがとうございました。そして近いうちにもっと大きなスーツケースを買って、ホストファミリーがビックリするほどの英語力を身につけて、また会いにいきたいと思います。

交流の翼の研修を通して

大野中学校　２年
１班　　鬼丸京佳

今回、この交流の翼の研修を通してたくさんの人と交流することができました。私にとって初めての海外。分からないことも多い中、本研修に臨みました。そんな本研修で感じたことがあります。それは、オーストラリア人の優しさ、温かさです。

ホストファミリーは、会ったその時からたくさん話しかけてくれました。たくさん話しかけてくれたおかげで、自然に笑顔になり話も弾みました。また、私のために、ゆっくり話してくれたり分からない英語があったら簡単な英語に言い換えてくれたりしました。学校ではホストスチューデントの友達が積極的に話しかけてくれたり一緒に遊んだりしてくれました。さらには、オレンジハイスクールの先生もとてもフレンドリーで授業中にもかかわらず話しかけてくれたり、体育の授業は、先生も一緒に取り組んだりとても親近感を感じることができました。これからは私も、もっといろいろな人に積極的に話したりしていこうと思います。

私はこの研修で学んだことがあります。それは、とにかく笑顔でいることが大切だということです。もし、分からないことがあったとしても笑顔で「もう一度言って」などと言うと、相手もゆっくり説明してくれます。また、こちらから何かを伝えるときも、笑顔で接することで親近感が生まれ、話が弾みました。私は、これからもこの笑顔で困っている人を助けていきたいです。

この研修を通して、私には、『もう一度オーストラリアに行く』という大きな目標ができました。何事にもチャレンジしようと思えたオーストラリアにもう一度行って、今度は、日本の文化をもっと伝え、オーストラリアについてもっと深く学びたいと思います。また、今回の研修で自分の英語力の未熟さに気づくことができました。次に行くときは、もっと英語を勉強してから行こうと思います。そして、今よりももっと積極的にコミュニケーションをとれるようになりたいです。

最後に、この研修に携わってくださった方々、このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。これからも、交流の翼で学んだことを活かしていきます。

オーストラリアと僕の日常

大利中学校　２年
１班　　伊藤　青也

僕が交流の翼で体験したことは数えきれないほどあります。

その中の１つは、いろいろな人との関わりです。チェリーさんこと国際青少年研修協会の中村さんや、オーストラリアで出会った多くの人たち、そして団員との出会いです。この出会いは、ぼくのこれからの人生に大きく影響してくるような気がします。

そしてもう一つはオーストラリアで出会った動物たちです。僕たちが行った動物園やホームステイ先では、生き物の命の大切さについて改めて深く学びました。ある所ではオウムがえさの取り合いをしていました。またある所では犬が噛み合っていました。そして僕のホームステイ先の家では、猫がご飯をねだってきました。このような動物との出会いも大切にしていきたいです。

ほかにもいろいろありましたが、今後、こういった体験で感じたことを僕の将来の夢の「警察官」につなげていきたいと思います。社会に出ると、人間同士の上下関係が出てきます。たとえば会社で仕事を進めるときに、みんなで頑張って終わらそうとしている仕事があるのに、自分だけ定時で帰るなどということをすると、協調性が崩れます。また、上司や同僚の人と上手くやっていかないと、中々仕事がはかどりません。これらはもちろん警察官でも関係しています。

僕は必ず警察官になります。そのためにも、ホストファミリーやオーストラリアで出会った人たち、団員のみんなと仲良くなれた経験を大事にし、豊かな人間関係を築いていきたいです。今回学ばせてもらったことは絶対に忘れません。

そして、本研修で学んだことだけではなく、交流の翼の研修全体で学んだことも忘れません。団員のみんなで協力して作り上げたパワーポイント、団長や事務局の方々の協力、一生懸命折って準備した折り紙、そしてなによりも、この研修に参加できるようにしてくださった皆様への感謝の気持ちを忘れてはいけないと思います。

ぼくは、団員の仲間とはこれっきりで終わりたくないです。大人になってまたどこかで逢えたら、今回の思い出話を分かち合いたいです。

最後に、交流の翼の研修を通して学んだことは、『行動は早めに』です。僕の行動が原因でみんなの作業が少し遅れたことがありました。これからは気を付けて早めの行動を心掛けていきたいです。

本当にありがとうございました。

オーストラリアで学んだこと

御陵中学校　１年
１班　　荒木　翔

私がこの交流の翼に参加し、事前研修などで仲間と過ごし、実際にオーストラリアに行って学んだことは、大きく二つあります。

一つ目は人と仲良くなる方法です。説明会で初めて出会い、第一次研修が始まったとき、私は他のメンバーのことを全く知りませんでした。どんな人なのかも、何が好きなのかも知らないまま始まった宿泊研修でした。しかし、一緒にレクリエーションをしたり、カレーを作ったりして会話が増えていき、自分からも相手からも話しかけられるようになりました。部屋でトランプをして遊ぶようにもなりました。私はたった二日間でこんなにも仲良くなれたことにとても驚きました。そのおかげで次の研修にどんどん積極的になることが出来ました。

そして、それはオーストラリアでの本研修でも同じでした。オーストラリアに到着し、オレンジハイスクールに向かったとき、私はまだホストスチューデントの顔を見たことがなく、少し不安でした。しかしオレンジハイスクールに着いたとき、ホストスチューデントは私を見つけてくれて、声をかけてくれました。その後、家に行き、家族と対面しそれぞれと握手を交わしました。それだけでみんな親しくしてくれて、オレンジでの生活が楽しいものになりました。私はそこで、国境を越えても仲良くしようとしてくれることに喜びを感じました。学校に行ってもたくさんの人から「こんにちは。」と日本語で挨拶されたりして、色んな人と親しくなることが出来ました。昼休みに、遊んでいるところに入れてくれたり、学校を案内してくれたりしました。どこでもすぐ人と仲良くなれることに驚いたし、楽しく過ごすことができました。

二つ目は、オーストラリアの『良さ』です。オーストラリアにはたくさんの良さがありました。まず私が到着して最初に感じたことは空気がきれいという事でした。都心であるにも関わらず、呼気が白く見えないのです。空気がきれいなのは良いことだな、と私は感じました。次にやはり土地の広さに驚きました。家一軒一軒がとても広いのです。しかも平屋建てでした。オーストラリアの広大な土地を万遍無く使用していて、日本との違いに驚きました。他にも交通に関することで、十六歳以上が車を運転できることや、四つ角の時、一方通行でロータリーを回らせる方式があって面白いと思いました。その他にも、たくさんの良さがあってオーストラリアの文化を肌で感じることが出来ました。

オーストラリアに行って感じたことはたくさんありましたが、これらのことがより強く心に残っています。そして、この交流の翼での体験を、検察官になるという目標に生かしていきたいです。この目標に向かって、今は勉強しています。検察官は仕事上、外国の人と話す機会もあると考えられます。

この研修を通して、コミュニケーションを積極的にとって、仲良くなりたいという意思を明確に相手に伝えれば、早く仲良くなれることがわかりました。将来や、これからに役立つことを学ぶことができ、私はこの研修がとても有意義なものであったと感じています。オーストラリアのことがもっと広く知れ渡るように努めていきたいです。

新しい出会い

平野中学校　１年
１班　　宮川　琴羽

私は、何でもマイナス思考に考える自分を克服したい、自分の英語の実力を発揮したい、そして多民族国家の国でどのように平和で楽しく生活しているのかを知りたいという理由で、交流の翼事業に応募しました。

8 月 11 日、オーストラリアへ出発する日。私は一回だけ海外に行ったことがありましたが、家族以外で行くのは初めてだったので不安でした。そしてこの日は、初めてホストファミリーと会って、英語だけの生活になるので、更に不安になりました。案の定、初日は英語もネイティブだったので聞き取りづらかったです。しかし、次の日には、慣れて英語が聞き取れるようになりました。でも、なかなか通じないことがあったので、その時はジェスチャーなどをして会話をしました。この経験を通して、まともな英語を喋らなくてもジェスチャーなどで会話ができると身をもって学ぶことが出来ました。

その勢いで学校体験もしようとしました。学校に行くと、黒人、中華系などたくさんの人がいました。しかしそこではみんな仲が良く、喧嘩やトラブルが一切ありませんでした。そこで、みんなで何かを話し合っているときに、注意して聞いてみることにしました。するとその子たちは相手を自分に合わせようとするのではなく、「あなたはそうなのね、私はこうなのよ。」「へ～。」と相手を否定することなく互いの価値観を認め合っていたのです。相手の価値観を否定することなく認めるのはとても難しいことだから、私も見習いたいと思いました。また、こういう考え方ができるから、みんな楽しく平和に過ごせるのだと学びました。

来年はオリンピックもあるのでもっと沢山の人と関わって、どうやって平和で楽しく生活していたのかを話し、もっと広めていって、世界中が、平和で楽しく過ごせるようにしたいです。

国際交流を通して

春日高等学校　２年
２班　班長　　田中　雅樹

僕が今回この研修に参加した理由は、英語を通じて海外の人と仲良くなりたいと思ったからです。そして、今回この研修を終えて自分はホストファミリーの人達と本当に良い関係が作れたと思いました。そして、次に海外に行くときにはもっと英語を喋ることが出来るようにたくさん勉強をしようと思いました。

事前研修で、自分は高校２年生で最年長なので、最初は年下の団員に対してどのように接したら良いのかわかりませんでした。しかし、１泊２日の１次研修を通してお互いに協力し合えるようになりました。

そして、１次研修後の事前研修では、オーストラリアで行う発表の準備や練習をしました。プレゼンテーションの準備はなかなか順調には進みませんでした。写真の準備や実際の発表を想定した練習等をする必要がありました。間に合うかどうかが心配で焦る気持ちもありましたが、班長として団員に対して積極的に声掛けをするように頑張りました。でも、準備に時間をかけた分、実際の発表の時には時間内に全部が出来て、とても順調にいき本当に良かったです。

本研修での目標は『積極的にコミュニケーションをとる』ということでした。実際、外国に行って会話をするときは、自分の英語が正しいのかはあまり考えずに一生懸命に伝えました。すると、自分が想像していたよりも会話が出来て自信になりました。

ホストファミリーと一緒に学校に行きました。僕のホストファミリーは牧場をしていて家は郊外にありとても広い敷地と大きな家で自分もこういう所に住みたいと思いました。学校までは車で３０分くらいかけて通学しました。通学中には、オーストラリアのことについて教えてもらったり日本の事を伝えたり、また、オレンジ市はワインをたくさん作っていることやリンゴが有名なことなど、英語で会話をする事で今まで知らなかった事を知ることができ、本当に良い時間が過ごせました。英語は少し間違えていたかもしれないけど、伝わることはたくさんあると感じました。学校でもオーストラリアの生徒はみんなフレンドリーに話しかけてくれるのですぐに仲良くなれました。

最も心に残っている思い出は、夜に見た星空です。オーストラリアでは、毎日たくさんの星が見られるのですが、１日だけ天の川が見られる日があり、ホストファミリーと一緒に牧場で星を眺めました。すると、大きな流れ星が一つ満点の星空の中を駆け抜けていきました。初めて見る光景に感動しました。

今回の研修はたくさんの夢や目標を自分に与えてくれました。いつかもっと英語が喋れるようになってホストファミリーに会いに行きたいと思いました。また、リーダーの難しさや新しいことに挑戦する素晴らしさを感じました。この経験を今後たくさんの場面で活かしていけるように頑張りたいです。

話すって楽しい！

筑紫女学園高等学校　１年
２班　副班長　　山中　咲幸

私は、交流の翼での研修をとおして叶えたい目標ができました。それは『ホストファミリーと再会する』というものです。

ホストファミリーとの初めての会話はLINEを通してでした。つながった時は、お互い嬉しくて、好きなことや欲しいお土産、それぞれの国の様子など話が大いに盛り上がりました。しかし、実際に対面すると、なぜか話が弾まなかったのです。なぜなら、画面上で英語を読み返事を返すのと、実際に話すのでは大違いだったからです。周りで飛び交うハイスピードな英語に、私は動揺してしまいました。そんなある日、ホストスチューデントのアラナと授業を受けていると、いつもゲームをしていたヤンチャな男子生徒が話しかけてくれました。「ポケモン、知ってる？」と。

完全に授業放棄でしたが、私も小学生時代に好きだったので、それぞれの好きなポケモンについて話し込みました。その日の放課後からは本当に楽しかったです。一人が話しかけてくれたことをきっかけに、連鎖するようにアラナのクラスメイトのみんなが話しかけに来てくれたのです。特に盛り上がった話は、日本語の覚え方です。数字では、一を「itchy(かゆい)」、二を「knee(ひざ)」、三を「sun（太陽)」と習ったのだと教えてくれました。日本では、英語を習う際、意味や発音を教えられますが、こんなに楽しい覚え方がある事を意外に感じ、おもしろくて、みんなで笑いました。これを機に多くの友人を作ることができ、次第に自然に話して、楽しめるようになりました。そして、毎日学校に行くのが本当に楽しかったです。

私は、この経験をとおして素直に『話すこと』ただそれだけに楽しさを感じられるようになりました。異なる国に住み、異なる文化を持つ人々とこんなにも楽しさを共有することができることは、私に強い衝撃を与えました。なぜ私は初めから積極的に話しかけられなかったのか今では不思議なくらいです。

オーストラリアで過ごした10日間の本研修で多くの人々と出会い、たくさんの思い出を作ることができました。これらすべては、大人になっても永遠に宝物です。また何事にも積極的に行動に移せるように成長した自分を改めて実感します。オーストラリアでの数日間では手探りなことも多く、失敗しながらの日々でしたが、『失敗は成功のもと』ということわざがあるように、一日一日が自分を飛躍させる貴重なものでした。研修前に立てた『友達を10人つくる』という目標は、本当に達成できるのか心配でしたが、いざ未知の土地『オーストラリア』に足を踏み入れてみると、そこは素敵な人々と雄大な自然が広がる最高の場所で、友達10人という目標なんてあっという間でした。この新鮮な体験をいつまでも忘れず、夢に向かってジャンプしていきたいです。

最後に、貴重な体験をさせてくださった関係者の皆様、ホストファミリー、交流の翼で出会った14人の仲間、背中を押してくれた両親へ、感謝の気持ちを伝えたいです。

「Thank you so much!」

研修を通して

福岡県立筑紫丘高等学校　１年
２班　副班長　　神戸　愛心

私は、自分の考え・価値観を見つめ直したい、自分の思いを他の方にきちんと伝えられるようになりたいということから、この交流の翼に応募しました。

事前研修では、活動内容のほとんどがペアワークやグループワークだったので、自分一人で何かをつくるというより複数人で協力することが多かったです。話し合いの中で自分には無かった考え、そして自分が気付かなかった面をしっかり捉えて指摘をしている意見などがありました。皆で協力することで物事を多角的に深く捉えることができるなあと感じました。

本研修でも印象に残ったことが多くありました。アボリジニの文化体験をした時のことです。私が一番引き付けられたのはドリームタイムという物語でした。ドリームタイムとは自分の感じたことや体験を説明する、アボリジニに代々伝わる古いお話です。話を聞きながらアボリジニの方々は、山や川、花や鳥などを見ただけでどうしてあんなに豊かな想像力を働かせられるのだろうと不思議に思いました。風景などを見る回数が増えると自分の感動は薄れていく気がするけど、アボリジニの方々はその感動や想像をさらに深め、考え、自分の中に昇華していくのだと思いました。

私は本研修で多くの人と出会い、その一つ一つの出会いの貴重さに改めて気付かされました。日本にいる時は意識していませんでしたが、違う国の人と初めて会って話すと、発見や喜びを感じました。誰かと共に過ごす時間をもっと大切にしたいです。

また、オーストラリアの生徒は積極的に話しかけてきてくれました。私は今までを振り返ると、積極性に欠けていたなと思う場面があります。自分から行動して直接話し、体験することで新たな成長があると感じました。ホストファミリーはよく私に「ありがとう」「どういたしまして」など温かい言葉掛けをしてくれました。私も普段よりうれしいことや楽しいことを共有することを意識しました。文化や国が違っても人を気遣い、想う気持ちはその人の心を温めてくれるのだと感じました。日本でも人に自分の思いを素直に伝えて、人の心を温めたいです。そしてこれから訪れる他の国でも、それを実践していきます。

交流の翼を通して…

御陵中学校　２年
２班　　金丸　隆佑

ぼくは、この交流の翼を通して、たくさんのことを学びました。その中で、印象に残ったことが３つあります。

１つ目は、仲間の大切さです。実際に本研修が始まって、ホームステイしたとき、とても不安になりました。自分はこの家のことをなにも知らないし日本語も通じないから、果たしてうまくやっていけるのだろうかと思いました。そんな中、学校に行けばみんなに会えることに気づき、はやく学校に行きたい、みんなに会いたいと思いました。また、明日になったらみんなに会えると思い、頑張ろうと思えました。交流の翼の団員だけでなく、オレンジハイスクールの仲間も心強かったです。毎日、笑顔でしゃべりかけてくれて、オーストラリアの人たちはとてもフレンドリーで優しいなと思いました。学校体験はとても不安だったけど、みんなのおかげでとても楽しいものになり、いい経験ができたなと思いました。そして、仲間の大切さを学んだのは本研修だけではありませんでした。事前研修では、みんなでアイデアを出し合いながらオーストラリアでの発表内容を考えました。最後までみんなで意見を言い合って、最高の発表をすることができました。

２つ目は、伝えようとすることの大切さです。これは、オーストラリアにいるときだけではなく、常に大事なことだと思いました。自分の意見を言ったらもっとよくなったかもしれないと思ったことが、日本でもオーストラリアでも何回もありました。でも、そう思えたおかげで、オーストラリアで積極的に意見を言える機会が増えました。また、自分の意見が相手に通じて、それに対して意見を返してくれた時はとてもうれしかったし、達成感がありました。少し、自分が誇らしく感じたりもしました。

３つ目は、家族の大切さです。これは、ホームステイを始めて１日目で感じました。母にやってもらっていたことも、頼まないといけなかったし、何よりとてもさびしくて何度も家族の写真を見ました。そのとき、改めて家族って大事なんだなと思いました。

ぼくは、この交流の翼を通して、海外でホームステイをするというとても貴重な体験をすることができました。この経験をみんなで共有し、自分の将来の夢などに生かしていきたいです。

Smile

大利中学校　２年
２班　　茂田　華奈

　私は今回のオーストラリア研修で『たくさんの人と関わることの楽しさ』と『笑顔でいることの大切さ』を学びました。
言語も文化も違うオーストラリアに行き、１人でホームステイをするなんて正直最初は、「私の英語はちゃんと伝わるのだろうか。」「ホストファミリーや同級生の子たちと仲良くなることはできるのだろうか。」と、とても不安でした。しかし、そんな不安はホストファミリーに会ってすぐに消えてしまいました。ホストファミリーは私のことをとても温かく迎え入れてくれて、笑顔でたくさんしゃべりかけてきてくれました。最初自分から話しかける時、「もしうまく伝わらなかったらどうしよう。」と、少し怖かったけれど、ホストファミリーが笑顔でたくさん話しかけてきてくれたおかげで、自然と私も自分からしゃべることができるようになっていました。そして英語で会話をすることがとても楽しくなりました。毎日「今日は何がしたい？」「何が食べたい？」と聞いてくれて、ショッピングや動物園に行ったり、サンドウィッチを持ってピクニックに行ったり、オージービーフのステーキを食べに連れて行ってくれたり、とても充実した日々を過ごせました。そんな優しくて素敵なホストファミリーのおかげで、オーストラリアで過ごした毎日は本当に楽しくて忘れられない思い出になりました。
　ホストファミリーと８日間一緒に過ごして「伝えたい」と思っても単語が分からないというときが何度もありました。しかし、そんな時も一生懸命伝えようとすると、必ずホストファミリーは私の言いたいことを理解してくれました。どんな時でも怖がらず一生懸命説明すれば、必ず伝わるのだと今回の研修で学ぶことができました。またある時、ホストマザーが「はなはいつも笑顔だね。」とほめてくれました。「楽しそうで私も嬉しい。」とも言ってくれて私は毎日が楽しかったから自然に笑顔になっていたけれど、『笑顔でいること』はコミュニケーションをとるうえでとても大切なことなのだと改めて感じました。
　今回のオーストラリア研修は私に「外国の方ともきちんとコミュニケーションがとれる。」という大きな自信を与えてくれました。これからは今回の経験をいかして、自分からどんどん外国の方に話しかけてみようと思います！
英語の勉強も、もっともっと頑張ります！！

I love Australia❤

学んだことを未来に生かす

大野中学校　２年
２班　　松永　結太

僕がこの研修を通して学んだことは３つあります。

１つ目は『笑顔の大切さ』です。

第一次研修の時に初めて顔を合わせたときは、みんな緊張して会話が生まれませんでした。でも、伊藤君がダンスを踊って、みんなに笑顔が見え始めてから少しずつ話すようになり、まとまり始めました。また、本研修の時、オレンジハイスクールのクラスメイトの人達に初めて会ったときにも、笑顔で話しかけてくれたので、僕があまり英語を分からなくても自然とお互いに笑顔になり、通じ合えたような気持ちになりました。

このような経験から僕は、『笑顔は世界共通の気持ちを伝える手段』だと思うようになりました。

２つ目は『時間の使い方の違い』です。

ホームステイ先では、毎日必ず家族全員そろって夜ご飯を食べたり、買い物を楽しんだりしました。また、就寝時間は毎日21時ぐらいで、日本に比べると睡眠時間がとても長いです。僕の家では父の帰りが遅いので、家族そろってご飯を食べることができる日は少ないです。

このような経験から、オーストラリアの人々は家族と過ごす時間をとても大切にしていることが分かりました。

３つ目は『相手の国の言語を理解することの重要さ』です。

ホストファミリーが、僕に日本のことについて質問してくることがあったけれど、僕はホストファミリーが話している質問の意味が理解できませんでした。反対に、僕がオーストラリアについて質問したいときも、すぐに言葉が出てこなくて困ることが何度もありました。つまり、表情やジェスチャーで伝わるところもあるけれど、やはり相手の言語を理解し、話すことができることによって、より深く相手の国の文化を知ることができるのだと思いました。

僕の夢は外交官になることです。そのきっかけは「杉原千畝」の本を読んだことです。杉原千畝は外交官として赴任していたリトアニアで、当時迫害されていたユダヤ人にビザを発給し、多くのユダヤ人を救った人として知られています。つまり外交官の仕事は、外国との交渉や、経済面での協力を通して、平和と人々の安全を守ることです。外交官の仕事をするためには、コミュニケーション能力を身につけることが必要だと思います。だから、今回の研修の中の体験から学んだことを活かして、夢の実現につなげていきたいと思います。

みんなちがって
みんないい

大利中学校　１年
２班　　萩原　優成

　オーストラリアと日本はたくさんの違いがあります。北半球と南半球、位置的な違いはもちろん、言葉や文化、食、いろんな事が違い、僕は多くを体験してきました。オーストラリアについて現地で実際に体感し日本との違いで最も思ったことは、オーストラリアはとてものんびりしているということです。まず空気がのんびりしています。国土が広いからかシドニー空港へついた瞬間、のほほんとした空気が流れているように感じました。学校へ訪問した際も、生徒がアクセサリーをしており、授業態度も日本ではきっと怒られてしまうだろうなというような自由さがありました。学校の帰りのバスでは、たくさんの生徒たちがとてもフレンドリーに話しかけてくれて、その場の柔らかい雰囲気から、時間がゆっくり流れていくように感じました。ホストファミリーの家でも、照明は日本より暗めで静かで夜寝る時間も９時くらいととても早くて、いつもなら１０時頃に塾から帰って宿題や次の日の準備をしてバタバタしている自分の普段の生活と比べて、のんびりした時間があるんだなぁとうらやましく感じました。僕のホームステイ先は、少し街から離れていたこともあり、夜の星空は想像以上に美しく、月の光でできる自分の影を生まれて初めて見て、いつもの日常とは別世界にいるようでした。この他、お勘定の時、現金払いだと５セント未満は切り捨てか切り上げになります（＄３．９９ドルなら＄４ドル支払う）。また、コインの裏側のエリザベス女王が、発行される年代ごとに、そのデザインも同じように年齢を重ねていくというユーモアさもあります。のんびりしているからこそ、ものの考え方が日本とちがうんだろうなということがたくさんありました。

　ぼくは、日本に住んでいるので基本的に日本の価値観で生活していますが、日本での常識、考え方、慣習にのみ縛られてしまっているので、ものの見方が随分狭かったように思います。オーストラリアへ行って様々な違いを体感してその国との違いを知り、自分の中で「こうでなければいけない」という小さな制限が一つ一つはずれて、世界を見る目がぐっと広がりました。

　言葉、文化、食などが違っても、こっちのほうが良い悪いと思うのではなく『みんなちがってみんないい』と考え、こだわりをなくして受けとめれば世界は広がるということをこの研修を通して学びました。これからもいろんな違いを知って自分の世界を広げ、夢に向かって進んでいきたいです。今回この機会を経験させてくださったすべての方々に感謝したいです。ありがとうございました。

「チャンスの扉の向こうへ」
…未来を託す君たちへ

（公財）国際青少年研修協会
引率リーダー　中村　千代（チェリー）

２０１９年夏、交流の翼でオレンジハイスクールでの学校体験＆ホームステイに参加した１４人の中高生のみなさん、その後元気に学校生活を送っていますか？

私が皆さんと初めて会った日は、第４次研修（博多追い山の日）でした。テレビでは味わえない山笠の迫力に圧倒され感動した私にとって、生涯忘れられない日と成りました。さて、皆さんより一足早く市役所の部屋で待っていた私を見て、緊張気味のみなさんでしたが、自己紹介ゲームを重ねるに連れ笑顔が増え、一人一人の個性が見えて来た頃には、「オーストラリアは楽しい研修になりそうだ」と嬉しく思いました。みんな明るく「自分の得意な事がしっかりある子供達」でした。実はこれは、海外ではとっても大事な事なのです。スポーツや趣味など特技があり、自信がある物を持っている事が、世界で一番コミュニケーションの役に立つからです。

実際、オレンジハイスクールでは、パワーポイントの発表はとても上手に出来ましたね。小学校での日本文化紹介も楽しんでもらえました。事前研修期間にアイデアを出し合って役割を決めしっかり準備をして自信を持っていたからでしょう。クラス授業では、それぞれのバディーのクラスに上手に溶け込んで自分で出来そうなことを見つけ頑張っていました。Farewell(さよなら)会では、沢山のファミリーが来て下さり、温かい会が開けましたね。ほんの８日間でしたが、みんなホストファミリーと良い関係が築けていたのでしょう。帰国日の朝のお別れの時、涙が止まらない人が何人かいました。全てに置いて素晴らしい貴重な体験が出来たと思います。

今、１４人それぞれが、いつもと同じ日本での生活に戻りました。しかし、オーストラリアに行く前の自分とは違う自分になっているのではないでしょうか？***『世界中の人とコミュニケーションをとるためには英語が必要』***と感じ、今まで以上に英語を習得したいと思い勉強に向っている事でしょう。それと同時に、***『何とかして伝えようとする姿勢は語学力以上に大事』***と気づいてくれたことでしょう。帰国後にアヤ先生から、「日本語授業を選択している生徒の意気込みが驚く程積極的になっている」とメールが届きました。相互交流した両方に良い影響があったようです。

ところで、何故私が青少年の国際引率ボランティアを続けるかと言うと、

A reason why I often go to foreign countries with students is that I feel it is important for young student.

若い時に世界に出て、自分の目で景色を見て、自分の耳で人々の声を聞き、自分の鼻で匂いをかぎ、肌でその土地の空気に触れ、同じ世代の仲間と直接会ってコミュケーションを

取ることで、お互いの国を大事に思う気持ちが沸いて来ます。未来を生きる皆さんの世代がこれからの世界を築いて行ってくれるでしょう。私は、若者が世界に一歩踏み出す時、勇気のボタンをちょっと押してあげられる大人でありたいと思っています。

今回、世界への一歩を踏みだす扉を開いてくれた「大野城市交流の翼」はとても素晴らしい事業だと思います。そして、***『チャンスの扉の中に一歩踏み出したみなさんは、このチャンスを生かし、この一歩を育てて行って欲しい』***と思います。

さて、私自身が今回の旅で一番心に残った事は、アボリジニーの方々の想いや、音楽やダンスは文化を伝承するためにある事、ブーメランは自分のこれまでの人生を描いていると学んだ事です。最後にアボリジニーの方々が「私たちの事を若い皆さんに伝えて行って欲しい」と言われた時は胸が熱くなりました。いつの時代も次の世代の若者に未来を託したいと願う事が、私の活動の原点に通ずるものがあると思いました。

皆さんの今回の思い出や経験は、生涯を通じ皆さんの【人生のキーワード】として力となる事でしょう。皆それぞれに自分の可能性を見つけ、前に進んで行ってください。そして時々みんなと連絡を取り、お互いに頑張る力を共有できる仲間でいてください。

最後になりますが、大切な場面でいつもみんなの心に響く言葉を伝えてくださったボスこと松下団長、好奇心旺盛でいつも目を輝かせつつ、私達の細部に気を配って下さった森さん、全力で関わってくれたオレンジハイスクールのアヤ先生、イアン先生、お世話になった学校の方々、この事業に関わって下さった全ての方々にお礼を申し上げます。
何よりも、私たちにお子さんを預けて下さったご家族の皆様と、一歩を踏み出した勇気ある君たちへ感謝を伝えたいと思います。ありがとうございました。
みんなに会えて良かったです。

Wish you all the best!　　by cherry

14 の笑顔

大野城市役所　こども部
こども未来課　こども育成事業担当
主任主事　　森　達也

今年の交流の翼では、初めてオレンジ市と交流をしました。そこは、日本とは別世界で、町を歩くだけでわくわくした記憶が蘇ってきます。団員のみんなにとってもオーストラリアでの研修は、本当に素晴らしい経験になったことでしょう。

みなさんと初めて出会ったのは５月でした。選考会を行ない、たくさんの中高生の中から選ばれた 14 人は、今、立派に研修を終え、一段とたくましく成長しました。交流の翼の引率者として、みんなの成長過程を一番の特等席で見守ることができたことを、心から嬉しく思います。

私は市役所の職員ですが、団員のみんなにとっては『学校の先生』のような感覚だったと思います。一方の私自身はというと、“教育のいろは”に明るくないながらも、交流の翼を成功させようと意気込み、引率者として団員の前に立ち、指導にあたりました。私の人生においても初めての経験だったので、色々と不行き届きな部分もあったことと思います。ただ、熱い想いを胸にこの交流の翼に参加した団員のみんなの期待を裏切りたくない、最高の思い出が作れるように全力でサポートしたい、という思いは強くありました。

個性的なメンバーが揃い、最初はなかなか上手くまとまらず、正直不安になることもありました。ですが、研修をこなしていくうちに少しずつまとまり始め、全員が全員をサポートする、まさに『チーム』として歩み始めました。リーダーを中心に整然とまとまっているわけではないですが、何かの組織をつくるうえで、それがすべてではないと感じさせてくれる 14 人でした。

事前研修では、慣れないパソコン操作に苦労しながら発表準備をこなしました。ダンスや班別課題がなかなか思うように進まず、完成まで随分苦労したことと思います。本研修ではたった一人でホームステイに挑み、コミュニケーションが上手くいかず、思い悩んだり戸惑ったりしたことがあったことと思います。そういった苦い経験から学んだことが、今後の人生で大きな意味を持ち、必ず価値のあるものに変わっていきます。

『人生において無駄なことはない』

これは私の好きな言葉であり、人生のモットーでもあります。みんなの心の片隅にでも置いておいてください。

今、このレポートを作成しながら思い返してみると、真っ先に浮かぶのはみんなの笑顔です。どんな場面でも笑顔で取り組み、研修中に笑い声が絶えることはなかったように感じます。時には団長からお叱りを受けたこともありました。でも、最後まで諦めずに取り組み、無事に研修を終えられたのは、みんなが笑顔で乗り越えてきたからだと思います。これは、誰にでもできることではありません。辛いときこそ笑顔で乗り切る。現代社会に

おいて、これほど大切なことはないかもしれません。また、笑顔は万国共通のコミュニケーションツールです。例え言葉が通じなくても、笑顔さえあれば気持ちは伝わります。みんなもオーストラリアで身をもって学んだのではないでしょうか。1つ1つ違う、団員みんなの笑顔が大好きです。これから大人になっても、その輝く笑顔を忘れないでください。

最後になりますが、これまで交流の翼を支えてくださった関係者の方々に深く感謝申し上げます。何より、団員の保護者のみなさまにつきましては、大事なお子様をお預けいただき、最後まで見守ってくださいまして、本当にありがとうございました。そして、14人の勇気ある団員のみんな、たくさんの思い出と感動をありがとう。それぞれの夢に向かって、これからも挑戦し続けてください。一人の人間として、勇気を持って未知の世界に踏み込む勇気を持つみなさんのことを心から尊敬しています。

最後はせっかくなので英語で。

『14 chosen heroes. This is not the end. This is where it begins.』

We love Australia❤

第２８回　大野城市中学生・高校生交流の翼　報告書

令和元年　１０月２０日　発行

大野城市中学生・高校生交流の翼実行委員会
（事務局：大野城市　こども部　こども未来課）